

日新館

NISSHINSHO

平成17年度 vol.12

甲府中学校 甲府第一高等学校
東京同窓会記念誌

今 新たなり 同窓の詩



創立125周年

パーキング経営のプロ集団



日本パーキング株式会社 代表取締役 **小林 伸 司**

(昭和42年卒)

〒102-0084 東京都千代田区二番町10番地5

TEL.03-3222-0015 FAX.03-3222-0029

URL <http://www.npc-npc.co.jp/>

大阪営業所 TEL.06-6377-0015 名古屋営業所 TEL.052-201-0015 福岡営業所 TEL.092-716-3623

山梨縣立甲府中學校 校歌

♩ = 92

三井甲之 作詞
東京高等音樂學院 作曲



1. わ れ ら は に ほ ん に 生 ま れ た ー り か
2. や ま ー と し ま ね に や ま め ぐ ー る 甲
3. お ほ ー う な ば ら の 揺 り や ま ー ぬ な



み ー の 御 代 より ひ と す ち ー の こ
斐 ー の く に あり み と ぎ よ ー き きよ
み を も か ぜ を も し の ぎ つ ー つ ま



う と う い た ー だ ー く わ が く に ー に 生
う ど の れ き ー ー し か へ り み ー よ わ
も ー れ み く ー に ー を も ろ と も ー に こ

(少し速く ♩ = 112)



ま れ し こ と ー の う れ し さ よ み く に の
れ ら の つ と ー め か ろ か ら ず 見 よ や ー
く み ん こ ぞ り て く に の た め う ー ま ず



さ か え は あ め つ ち と とも に ー き は ま り な か る べ し
み な み に 富 士 ケ 嶺 と み く に の し ず め と そ び え た り
ひ る ま ず た ち ろ が と は す す む ぞ や ま と ー ご こ ろ な る

山梨縣立

甲府中學校 校歌

三井甲之 作詞
東京高等音樂學院 作曲

一、我等は日本に生れたり

神の御代より一系の

皇統戴く我國に

生れしことのうれしさよ

皇國の榮えは天地と

共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる

甲斐の國あり水清き

郷土の歴史顧みよ

我等の務め輕からず

見よや南に富士ヶ嶺は

皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ

波をも風をも凌ぎつつ

護れ皇國を諸共に

國民舉りて國のため

撓まず萎縮まず辟易がず

進むぞ大和ごころなる

山梨県立甲府第一高等学校 校歌

莊嚴に (♩ = 84)

上 條 馨 作詞
小 松 清 作曲



1. 甲 斐 の く に み な か に 建 ち て
2. 日 に あ ら た ま た 日 に あ ら た
3. そ び え 立 つ ふ よ う の た か ね



い に し へ ゆ 雄 ご こ ろ つ た へ
い や た か き の ぞ み を も ち へ
き よ き か な 甲 斐 の や ま か は



あ た ら し き 世 の か が み と し つ
ま こ と な る こ と わ り き は め は
も ろ と も に た ま と み が き て た



と 一 め て む この ま な び や に
げ 一 み な む わ か う ど わ れ ら
す 一 く べ し て ん ち の く わ い く

山梨県立甲府第一

高等学校 校歌

上 條 馨 作詞
小 松 清 作曲

一、甲斐の國 み中に建ちて

古へゆ 雄心傳へ

新しき 世の鑑とし

勉めてむ この學舎に

二、日に新た また日に新た

彌高き のぞみをもちて

眞なる 理究め

勵みなむ 若人我等

三、聳え立つ 芙蓉の高根

清き哉 甲斐の山川

もろともに 玉と磨きて

賛くべし 天地の化育

ご挨拶

「日新鐘」に寄せる

東京同窓会会長 恩田宗

今年の「日新鐘」が焦点を当てている一九六〇年代の中葉は、日本と東南アジアとの関係の節目の時期でした。

日本は、そのころまでに、全ての東南アジア諸国と賠償協定の締結を終え、戦争の後始末を済ませました。そして、一九六六年四月、東南アジア開発閣僚会議を東京で開催し、東南アジアの開発に出来るだけ協力して行く旨約束しました。

以後、ヴェトナム戦争、ニクソン・ショック、二度の石油危機、プラザ合意、アジア通貨危機など、様々な困難な事態に直面しましたが、日本政府は、その約束を守って変わることはありませんでした。また、東南アジアに対する開発協力には、民間からも多くのヴォロンティアが参加しました。甲府中学、甲府一高卒業生もホームステイの受け入れ、現地での植林、学校教育支援等に活躍しました。お陰で、今、日本はこの地域の国々と極めて良好な関係にあります。

我が同窓の方々が、この良き伝統を守り、今後とも東南アジア諸国に対する協力を積極的に参加して下さるよう願っています。

在校生達に大きな希望と意欲

同窓会会長 飯田祥雄

甲府盆地は花の宴を過ぎて、日毎に野山の緑が輝き始めました。この良き季節に、今年もまた甲府一高東京同窓会の便りを聞くことが出来るのは、誠に心強いもので、当番幹事の昭和四十二年卒業生の皆様のご苦勞に感謝を申し上げます。

五月の甲府での同窓会総会とともに七月の東京同窓会が年毎に勢いを増し、良き思い出とともに、明日に向かっての新たな意欲の湧き出づる場となっていることは大変心強い事であり、在校生達に大きな希望と意欲を与えることが出来ます。

同窓生各位が心配していた総合選抜の弊害についても、改善の方向が明るさを増しており、母校の Be Ambitious の伝統は益々勢いを得て、後輩達が成果を誇る日も近いと思われれます。

平成十七年度の甲府一高東京同窓会がこれに先駆ける総会になるよう期待しています。

母校愛あふれる御支援に感謝

校長 高瀬孝人

平成十七年度甲府中学校・甲府第一高等学校東京同窓会総会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

平素は、同窓会の皆様の母校愛あふれる、物心両面にわたる御支援・御協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

昨年度も本校生徒の活躍はめざましく、県高校総体の男子総合5位、男子テニス・アーチェリー・空手・水泳のインターハイ出場、書道の全国高文祭出場、放送のNHK全国大会出場がありました。また、今年度は、書道・筆曲・文芸の各部が全国高文祭の出場権を獲得しました。

本校は、現在、文部科学省の指定を受けた Super English Language High School (SELHi) という事業に全校を挙げて取り組んでいます。英語科のみでなく、普通科においても、英語での発信力を高める様々な先進的試みを通して、将来有為な国際人の育成を目指してまいります。

平成十九年度以降の「全県一学区」総合選抜廃止」という状況を見据えて、本校の在るべき姿の検討が緊急課題です。会員の皆様の変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

女性の活力が新たな同窓文化を創る

一紅学会長 飯田富美子

昨年二月一日に第三代会長に就任してはや一年余り。この間数回の幹事会が開催されましたが、回を重ねるごとに大きな笑い声が聞こえ、女性のたてのネットが完全に一つになる素敵な間(ま)ができてきました。

このような中から生まれた第八回新春講演会は、二百六十四名(女性百二十七名、男性百三十七名)という予想以上の参加者を得て成功裏に開催できましたことを大変うれしく思っております。もちろん講師の作家渡辺房雄氏のお力によるところは大有りありますが、それにもまして企画PJ委員をはじめとした幹事の皆さん、当番学年幹事のみなさんの事前準備から当日の閉会まで素晴らしい連携プレイがあつたからこそ思っております。

今「一紅会」も若い世代の幹事を迎え、四十名以上の幹事たちが、ますます確かな手ごたえと輝きを放っていました。

まさに女性の活力、活性化こそ新たな同窓の絆を深め、新たな同窓文化を創り上げていく原動力になるのではないかと思っております。

一紅会はその一翼を担うべくこれからもより力強く、たおやかに、邁進する所存です。

「絆」から「詩」へ

平成十六年度幹事長 高木悦子

甲府一高東京同窓会及び甲府の皆様、昨年度は私達昭和四十一年卒当番幹事会への惜しみないご協力とご支援をありがとうございました。

「伝統」の重さを実感し、「同窓の輪」の大きさに感動し、同期の仲間達との「和」が育まれ、そして今後の東京同窓会の在り方について、世代を超えて根つこから見直すべく語らひのできた昨一年間でした。

「出席して良かった」と参加された皆様のそんな思いこそ同窓会が繋がっていく原点かと思えます。

「来年の同窓会もまたきつと参加しよう!」

「仲間にもっと広く声をかけよう!」

などと余韻にひたりながら再会を約し、家路につく同窓の仲間達の姿は感無量でした。

「Simple is best」は私が日々の生活に目指していることであり、「一期一会」は私の座右の銘であります。同窓会にも相通ずるものがあるかと思ひました。

当番幹事学年を経験した先輩諸兄諸姉には同窓会の良さを十二分に伝えていただき、これから当番幹事を受ける後輩達はより客観的に組織を見直し、共に肩を並べ、この東京同窓会が受け継がれていくことを願つてやみません。

結び直され深められただろう「絆」は本年度更に広められ心温かい「詩」となつて東京同窓会に高らかに響きわたっていくことでしょう。

あの学舎を、あの山並みを思い出しつつ。

一高同窓会に接して

平成十七年度幹事長 横澤良次

「青天の霹靂」とはこんなことをさしているのでしょうか。卒業後、ほとんどご無沙汰していた同窓会で、昭和四十一年卒の幹事の皆様から、同窓会の終了後、私に引き継ぎ会に出席するように話があり、そのまま、次期当番幹事長にさせていだいた次第です。新春の箱根駅伝に例えますと、応援の旗を手に、沿道に参じた私に、突然「貴方がバトンを持つて走るのよ」と言われた感じです。

皆様にはご心配をおかけいたしました四十二年卒業生ではありますが、その後、毎月の幹事会で、卒業後初めてでも、四十年近い人生の遍歴を親しく語り合い、同窓会の準備に邁進してきました。友人や先輩の皆様が実業界で活躍されている様子を身近に感じ、一高の卒業生であつたことを今、新たな思いにて感謝しています。ご支援いただきました先輩の皆様どうもありがとうございました。

「霧晴れて 仰ぐ芙蓉の 峰爽やか

新たに響く 同窓の詩」

学舎の今昔



日新鐘 今は新校舎のアトリウムに



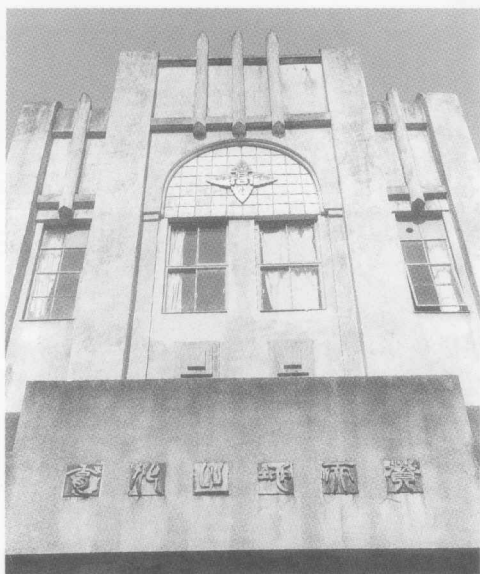
日新鐘 以前は旧校舎屋上にあった日新鐘



新校舎 旧校舎のイメージを残し平成 5 年完成



新校舎の「賛天地之化育」の文字



旧校舎（昭和 3 年建築）と賛天地之化育の文字



新体育館（平成 5 年完成）



新体育館 像と文字「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」は昔のまま



旧体育館 正面（像 須藤 獏，書 内藤多仲）



百周年記念館（昭和 56 年完成）



音楽館 今は姿を消した（昭和 28 年完成）



時計台がついていた講堂
入学式が行われ、校歌・応援歌を習った



日新館（平成 6 年完成）



日新ホール（昭和 36 年完成）



下校時に立寄った中沢商店と望月商店
外観は変わったものの健在



大島正健先生彰徳碑除幕式 1965.10.23

大島正健先生彰徳碑 昭和 40 年 10 月に除幕式が行われ、その時は図書館横にあった



大島正健先生彰徳碑 現在は新校舎の前に

我らが時代の甲府一高

今年度の当番幹事である私たちが甲府一高に入学した昭和三十九年は東京オリンピックが開かれ、日本の高度経済成長が一層加速された年であった。新幹線が走り、高速道路が開通し、街も人の心も大きく変わっていった。そのころ甲府の学舎で若者たちは何を考え、どう行動していたのか、時代の動きにも触れながら記録することにした。

下宿・通学

トンネルとスイッチバック

六組 細木博雄

長坂町の峽北中学から一人、一高に行った。入学時、甲府以北の中央線は蒸気機関車だった。塩崎と穴山のトンネルでは、煙にむせ、鼻も顔も黒くなった。塩崎から七里岩を小淵沢に上っていく間、塩崎、新府、穴山、長坂の四つの駅はスイッチバックだった。新府では、勢いをつけて上り始めても時々失敗し、やり直してやっとう上っていく。

家から日野春駅まで四キロ。バス路線はなく徒歩四十分。砂利道で舗装なし。峽北高校（今の北杜高校）の脇を通って自転車でも十五分かかる。一高までは全部で二時間。峽北高校なら何のことはないのに、くたびれるだけ。

そこで下宿することにした。四疊半風呂なし賄い付きで、月七千五百円／＼八千円位が相場だったか。国立病院の裏、天神町の汚い部屋を二千円で借りて飯は自分で賄った。馴染んでくると魚屋や惣菜屋はまけてくれ、食堂では三割増量で食べさせてくれた。三年にもなると時には黒平からの下宿友達と他所の畑の野菜を無断で採取し、怪しい材料で楽しむこともあった（コップに澱が沈む生葡萄酒は強くて飲めなかった）。風呂は公衆浴場。洗濯は自分で手洗い。気になって「俺臭くねえか？」と飯島徹君に聞くと「石鹸臭い」と言われた。

武川村黒沢から来ていた小沢三兄弟は緑ヶ丘にいた。身延から近くに下宿していた望月哲夫君の学燈は毎日次の日がきても消えなかった。塩山の熊谷一富君は校門近く、お爺さん所有の廃業した料理屋にいてしばしば遊びに行った。その向かいの電気屋は熊谷君が親しくてジャイアント馬場対フリッツ・フォン・エリック戦などのテレビを見に行った。

何処で知ったか、何不自由ない医者の子が「親父と喧嘩して帰れない」などと泊まりに来る。そうかと思えば、本校教師の息子が「家を飛び出したけど米はないか」などと言ってくる。怒られてサボっていると、「今日はどうした」と担任教師も新聞配達が使っているような自転車で行ってくる。

田舎者は、環境に慣れるだけで既に目が回っている。勉強はお手上げだったが、それとは別の自分探しをしていた。下宿で担任にそう話し

たら小言を言わなくなった。親父が倒れたこともあり、都庁に入って中央大学の夜間に通うことにした。

中央線は在校中に電化され、高速道路も出来た。甲府駅には三十数年降りることはなかった。夫婦仲の良かった家主や甲府に越して一高進学を祝ってくれた日野春小学校の恩師には不義理のしつぱなし。お許しあれとしか言いようが無い。

行く先不安なトンネルと行きつ戻りつのスイッチバック。それでも、三年の間に一高イズム？だけはしつかり刷り込まれていたらしい。迷いとカオスの孵卵器の中で。

【中央線】甲府まで開通したのは明治三十六年（一九〇三年）六月で、この時、甲府をはじめ塩山、日下部（現山梨市）石和（現石和温泉郷）の四駅が開業した。さらに西に向かって工事が進められ、同年十二月にまず塩崎までが開通、翌年富士見までが開通した。甲府以東は昭和六年に電化され、甲府―東京・飯田町間の所要時間が約三時間半であった。以西は電化が遅れ、甲府―上諏訪間の電化が完成したのはようやく三十九年八月。三十五年から気動車で急行「第一、第二アルプス」が新宿―松本間に運転されていたが、四十一年十二月には初の特急電車「あずさ」が新宿―松本間で運転を開始し、一層便利になった。

「おはなはん」と遅刻

六組 古川啓子

キンコンカンコン・・・始業を告げるチャイムを聞きながら、自転車荷台に学生鞆をくくり付けたゴムひもをほどくのももどかしく、息せき切らして教室へかけ込むのが朝の日課でした。

間に合ったのか遅刻だったのかはよく覚えていないのですが、なぜそんな事になったかという、そうです！「おはなはん」を見てしまったからなんです。八時三十分に見終わって、授業が始まるのが八時四十分。北口（お城の北側）の御納戸通りの我が家から猛スピードで自転車を走らせて十分弱で学校に着けたのでしょうか。「今日こそは見ないで早く家を出よう」「いや、少しでも見て余裕を持って出かけよう」と思いながらついつい最後まで見てしまう。

心が葛藤（大げさ！）した感覚、風を切って必死で走らせた自転車の感覚が、懐かしく思い出されます。家が一高に近い友達は、「親に怒鳴られながらも見てから出かけて遅刻した」と告白しており、同じような行動をしていたようです。

ちなみに朝の連続テレビ小説は、昭和三十九年「うず潮」、四十年「たまゆら」、四十一年「おはなはん」、四十二年「旅路」でした。

もう一つ、記憶に残っているのが、朝日新聞に連載された小説「氷点」（昭和四十年）です。休み時間、どうなるのかしらと友達とひととき盛り上がり、読むのを楽しみに家に帰ったもの

でした。

あの頃のテレビ番組と共に、我が青春の甲府一高時代が懐かしく思い起こされます。

【連続テレビ小説】昭和三十六年四月に第一回の「娘と私がスタート」。「おはなはん」は第六回で、四十一年四月四日から一年間かけて三百十話を放送。年間平均視聴率は四五・八％を記録。放送が始まる多くの家庭で家事の手を休めてテレビを見るため、水道の使用量が激減したという。主人公を一八歳から八十歳まで演じた新人の榎山文枝は一躍スターとなった。共演は高橋幸治、津川雅彦ら。

身延線通学の思い出

四組 村松恵二

数年前、大学卒業三十周年記念のクラス会に出かけました。それがきっかけになったのか、旧友たちの顔立ちや姿がふと心に浮かぶことが多くなりました。高校時代を思い出そうとするとき、鮮明に浮かんでくるのは、通学時間に知り合った人たちです。私は身延線を利用して通学していました。鯉沢口駅から甲府駅まで五十分くらい、通学定期乗車券が三カ月券で三千円ほどだったように記憶しています。

通学電車では、人それぞれ好みがあつて、乗車車両がおのずと決まってきました。しばらくしてそれが変わるときは、仲良くなるにせよ仲違いにせよ、近づくためであれ、避けるためであれ、

とにかく、通学生同士の小さな「ドラマ」があるのです。今になれば、アハハと苦笑しながら、なつかしく振り返れるものですが、当人にとっては実に深刻で、それは友人同士のおしゃべりの最大の話題でもありました。この私も、その「当人」の一人でした。卒業後も含めて、それこそかなりのエネルギーを割いて、ようやく現在の女房を「獲得」しました。

それにしても、あの、「受験戦争」を脇においてしまうほどのエネルギーはどこからきたのでしょうか。ふるさとを離れて三十八年！あのころ一緒に通学していた人たちは今どうしているのでしょうか。どなたか身延線通学者の同窓会を開いてくれないだろうかなどと、虫のよいことを考えています。

【身延線】昭和三年に市川大門―甲府間が完成し、富士―甲府間八八・二キロが全線開通した。駅の数には甲府と富士を含め三十九駅。駅の間が最も短いのは市川大門―市川本町間の八百五十メートル。通学生が利用していたのは昭和三十八年から走っていた「クモハ四一型」という車両と思われる。三十九年からは準急「富士川」が二往復運転され、四十一年には急行「富士川」と準急「白糸」に分かれた。

父への詫び状と一高入学

十二組 宇野文子

四方を山に囲まれた甲府盆地の南西部に位置する増穂町が私のふるさとです。男、男、女、女の四人兄妹の末っ子でした。亡き父が「おまえたちは遠くに嫁にやらない。何時でも親の所に顔を出せるように近くに住まわせた。」と口癖のように幼い私たちに言って聞かせていたのを思い出します。黙って聞き流しておりましたが、長ずるに従って私たち姉妹は父のそうしたいとは思腹に「もつと広くて自由な世界を見てみたい。」という思いをますます強くしていきしました。

昭和三十七年四月姉が一高に入学し、二年後の三十九年私も後に続きました。ちょうどこの頃は、入学試験さえ合格すれば山梨県下どこからでも一高に進学できる制度だったので私たちはとてもラッキーでした。この制度がなければ地元の高校に進むしかなかったからです。もし一高以外の高校に進学していたらどんな人生になっていたかしら？もつと父の希望に添う事が出来たかしら？と時々思うことがあります。昭和三十年代日本は高度成長を続け、高校に入つた年には東京オリンピックが開催され東海道新幹線も開通しました。めまぐるしい変化の中、草木がなびくように若者は都会にあこがれ洋洋たる前途が開けているかのようにでした。

一高入学で田舎町から脱出する最初の切符を手に入れた私は意気揚々と電車通学を始めました。朝六時五十分のバスで鰍沢口に出て身延線

で甲府に出ます。甲府駅からまたバスに乗っての通学は今思うと結構大変ですが当時はうれしさの方が勝っていました。もつと遠い身延の方から通学する友人もいたり仲間も結構多かった。で通学はそれなりに楽しいものでした。

もちろん通勤客も多くいたはずですが駅に停車するたびに高校生が吸い寄せられるように増えていき我ら団塊の世代の高校生だけが印象に残っています。参考書を掲げて勉強している優等生もたくさんいましたが私は専ら友人とおしゃべりを楽しんでいました。ガタン、ゴトンと多くの若人の夢と希望を載せてゆつくりと電車は田園地帯を走りました。車窓に広がる光景はのどかな田舎そのものでした。桜が散つてしまふとあたり一面を濃いピンクに染めてしまうレンゲの花々、田植えが終わると緑の絨毯を敷き詰めたような初夏の光景、稲穂が実り黄金色に輝く秋の田んぼとそれを取り囲む山々、どれもが懐かしい高校時代の思い出と重なります。

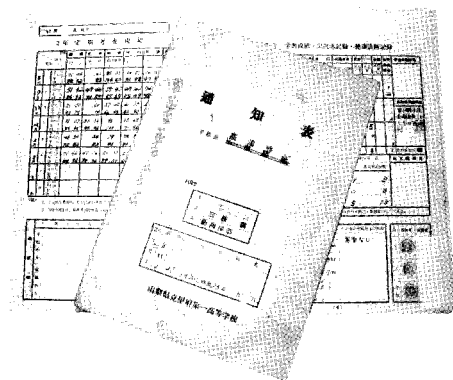
中でも冬晴れの厳しい寒気の中で、仰ぎ見た八ヶ岳の輝く白さは深く心に焼き付いています。山梨から早く出たいと思ひながらこの風景こそ私の原点だろうなといつも自分に言い聞かせ眺めておりました。

その後東京の大学に進学し、都市銀行に就職しその間二年間ほど海外勤務も経験しました。あれからほぼ四十年。広い世界に出ていくにつかつけを作ってくれたのは甲府一高だったと思います。お父さん、私がなかなか結婚しないでさぞやきもきなさったでしょうね。それに結

婚してからも長いことブラジルにいたりしてご希望には添えませんでした。が今幸せに暮らしていますのでご安心ください。

【学区制】昭和三十年代に入ってから高校への進学率が高まり、昭和三十五年には山梨県でも六〇・九%になった。こうした中でこれまでの学区制を見直す動きが強まり、昭和三十六年に学区外入学の制限が廃止された。学区外入学を希望する生徒は増え続け、昭和四十一年には県下の平均で二〇%に達したが、中でも甲府一高は三〇%を超えていた。

しかし、昭和四十二年に甲府一高と甲府南高を対象に甲府学区総合選抜制度の導入が決定され、翌年から実施されたため、いわゆる全県一学区制は廃止となった。



思い出時刻表（昭和 39 年 10 月 1 日改正）

－当時の甲府一高生が通学に利用したと思われる国鉄の時刻表・甲府駅基点－

行 先	中央線 (下り)				中央線 (上り)			
	塩尻行	甲府行	甲府行	甲府行	新宿行	塩山行	新宿行	新宿行
列車番号	421	311M	541	531	532M	322M	430	432
大 月発	603		648		着 1616		1707	1826
初 狩発	614		658		発 1603		1659	1818
笹 子発	629		715		発 1553		1647	1802
初鹿野発	638		723		発 1541		1633	1746
勝 沼発	647		733		発 1532		1619	1731
塩 山発	654	712	741	757	発 1526	1557	1411	1719
東山梨発	-	716	-	-	発 -	1553	-	-
山梨市発	701	719	748	814	発 1517	1549	1603	1654
別 田発	-	723	-	-	発 -	1545	-	-
石 和発	709	729	756	822	発 1510	1541	1552	1646
酒 折発	714	735	802	827	発 1505	1535	1547	1640
甲 府着	719	739	806	831	発 1458	1531	1540	1634

行 先	中央線 (下り)				中央線 (上り)	
	長野行	松本行	長野行	辰野行	新宿行	新宿行
列車番号	425	427	429	431D	422	424
甲 府発	1413	1519	1602	1724	着 733	816
竜 王発	1419	1525	1609	1731	発 727	809
塩 崎発	1426	1531	1615	1742	発 717	802
韭 崎発	1433	1538	1628	1752	発 710	756
新 府発	-	1550	1640	1809	発 700	747
穴 山発	1453	1601	1651	1825	発 652	736
日野春発	1502	1615	1701	1834	発 644	728
長 坂発	1516	1628	1719	1847	発 635	718
小淵沢着	1528	1641	1732	1859	発 625	707

		身延線					
		(下り)		(上り)			
行	先	甲府行	甲府行	富士行	富士行	富士行	富士行
列車 番号		611M	715M	626M	625M	628M	630M
身 延 発		623	636	着 1517	1616	1714	1805
塩 之 沢 発		626	639	発 1514	1613	1711	1802
波 高 島 発		632	645	発 1509	1607	1705	1756
下 部 発		635	648	発 1506	1605	1703	1754
甲斐常葉発		639	652	発 1402	1559	1659	1750
市ノ瀬 発		642	655	発 1457	1556	1656	1747
久那土 発		646	659	発 1452	1551	1651	1742
甲斐岩間発		649	703	発 1449	1548	1648	1739
落 居 発		652	705	発 1447	1546	1646	1732
鰍 沢 口 発		659	716	発 1440	1539	1639	1725
市川大門発		703	720	発 1435	1534	1634	1720
市川本町発		706	723	発 1433	1532	1630	1718
芦 川 発		708	725	発 1430	1529	1627	1716
甲斐上野発		710	727	発 1428	1527	1624	1713
東 花 輪 発		715	732	発 1420	1522	1619	1708
小 井 川 発		717	734	発 1417	1520	1616	1706
常 永 発		719	741	発 1414	1517	1613	1703
国 母 発		723	744	発 1411	1514	1609	1700
甲斐住吉発		726	748	発 1408	1511	1606	1657
南 甲 府 発		731	754	発 1406	1509	1604	1655
善 光 寺 発		734	757	発 1402	1505	1600	1651
金 手 発		736	759	発 1400	1503	1558	1649
甲 府 着		738	801	発 1358	1500	1556	1647

「交通公社の国鉄監修時刻表 1964 10 全国ダイヤ大改正号 新幹線開業・各線電化・特急増発 150 円」の復刻版（JTB 2003 年 3 月）を基に作成。



生徒総会

七組 雨宮健

僕の思い出のアルバムも高校生時代となるとだいぶおぼろげになって来ましたが、その一ページからです。

甲府一高の生徒会の総会は春、秋年二回、授業を全くせず朝から一日をまるまる費やして行われました。生徒は体育館の床に学年別クラス別に座りこみ、議長団がその前に陣取り、その脇には先生方が椅子に座って傍聴しておられました。毎回上程された議題が「制帽の廃止」と秋の総会には「教室にストーブの設置を！」でした。

「制帽の廃止」に関しては、発言する生徒から如何に制帽は無用なものであるのかがとうとうと述べられ、その演説の合間には「帽子屋の生活を守れ！」などというヤジも飛び交ったりしつつ、制帽の廃止は毎回男子生徒の圧倒的多数の賛意で可決されました。しかし、制帽は廃止されることはありませんでした。

もうひとつの「教室にストーブの設置を！」は一年生から提案される議題でした。「地球温暖化」などと言うことが言われるずっと前の甲府盆地の冬の寒さは厳しいもので、特に一年生の教室であったバレーコート脇の木造の校舎は冬の北風が吹くと、北側窓際に座っている生徒の髪の毛が隙間風で揺れるほどでしたので、生徒

全員が暖房が欲しいと思っていたはずでした。しかしながら、三年生は二冬辛抱したのだから今さら必要なしと常に反対に回り、二年生は半々のようでしたがわずかに反対の意見が多かったようで、結局この議題は毎年否決されていました。その決議が影響したのかしなかったのか、僕らの在学中、教室にストーブはありませんでした。

全員参加の生徒会ではありませんでしたが、出席への拘束はそれほど厳しいものではなく、ある時に仲の良かったT君から誘われて途中で生徒総会を抜け出し春日通りにあった映画館へ成人映画を見に行った事がありました。平日の白昼、学生服のまま切符売り場で切符を買おうとしたのですが、やっつてることが大胆すぎたのか、あるいは映画館側が周囲の眼に気にしたのか、切符を売ってくれませんでした。今と比べて世の中が鷹揚な時代ではありましたが、ちよつと無謀でした。

今は遠き我が青春のひとつこまでした。

【生徒総会】生徒自治会は、戦後の諸改革の流れを受けて昭和二十二年に結成された。生徒総会は「全会員を以って構成された生徒会の最高決議機関である」と定められていて、「毎年五月と十一月の二回開かなければならない」とされた。また、総会の定足数は構成員の四分の三とされていた。

甲府一高の生徒総会は昭和三十年代までは何日にもわたり紛糾するので有名だったという。

例えば三十四年の秋、三十五年と三十六年の春はいずれも三日間開催された（三日目は不成立だったり、一時限だけだったりが）。四十年代に入り、会長、副会長の立候補者難が続くなど、自治会活動に対する生徒の関心が低下したこともあって、こうした長時間の総会はなくなつた。

クラブ活動と生徒総会の思い出

一組 八田政恭

今から四十年ほど前、高校時代私は電気物理部に所属していました。当時部室は物理教室横の準備室の半分を使っていました。休み時間や放課後はいつも部室に行き部員の皆と楽しく遊んでいた事を懐かしく思い出します。夏休みには学校に泊り込み合宿と称して何日かまとまった活動を行っていました。また、化学部、生物部の皆さんとも交流があり、放課後はトランプやバトミントンをしていました。卒業後もクラブの合宿に参加した事もありました。

当時の部員たちとは今でも正月二日午後から湯村の常盤ホテルにて、毎年欠かさずOB会を開催しています。既に卒業後四十年を迎えようとしています。既に卒業後四十年を迎えようとしていますが、五、六時間思い出話や現在の仕事や技術動向等を高校時代に戻ったような気持ちで話し過ごしています。その後来年の予約をして一年後の再会を約して散会します。

クラブ活動には予算が必要で生徒会との折衝や生徒総会への関心もあり、積極的に参加していました。生徒総会は毎年三日程かけて行っていたと記憶しています。その中で議事の進行や

討議が活発に行われ学校生活の多くの事を生徒総会で決議しそれを学校側も認めていました。

議事の進行に関しては議事運営規定が生徒手帳にあり、特に動議の扱いに関してはその運営が細かく規定されていて、総会では動議の応酬が行われた記憶があります。

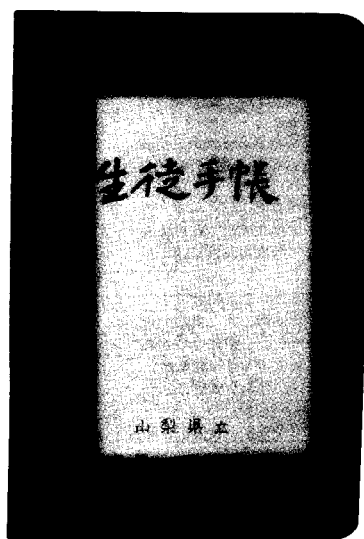
当時の生徒手帳を見たいと思いますが見当たらずでした。しかし、幸い今でも保管していた同級生から借り受けることができ、高校時代を思い出し懐かしさで一杯になりました。ページを繰りました。

手帳の規約の項目の最後に「生徒会議事法」があり、第九条が動議を定めています。動議の種類は休憩動議から修正動議、議事進行に関する動議など十四種類あり、さらに採択順位や修正できない動議の種類、セコンドを必要としない動議の種類など実際の会の運営方法が十四項目にわたり決められていました。

大学や社会にでてからも、色々な場面で動議という言葉を知り機会は多かったけれども、その取り扱いや意味については、高校時代の生徒総会が一番分かりやすく、また詳しくあったと思います。

【クラブ活動】正式には「校友会」と呼び、文化局、体育局、外局の3局があった。自治会規則では文化局は文学、語学、弁論、社会科学、化学、生物、映画、音楽、美術、書道、写真、電気物理、園芸、演劇、天文、郷土研究、家庭、ペンフレンド、華道、赤十字、ユネスコの二十一部。体育局には陸上

競技、水泳、山岳、庭球、野球、卓球、籠球、蹴球、排球、機械体操、ラグビー、ハンドボール（送球）、スキー、スケート、バドミントン（羽球）、柔道、ダンス、剣道、滑空、弓道の二十部あったが、滑空部は休部していたようだ。外局は新聞部、図書部、放送部の三部。このほか応援、プラスバンドの両部は自治会本部直属だった。また、入退部は自由だったが、同じ局で三部以上の入部はできないことになっていた。



親父のこと



五組 須藤襄

私が高校に入学した時にはまだ親父（貌）が甲府一高に在任しており、なんとなく気まずい思いもありましたが、それまで（その後もずっと）

と）どこへ行っても貌の息子ということで周囲の方々から可愛いがられていたせいか、特に大きなプレッシャーはありませんでした。

一年時には音楽部に所属していましたが、親父の勧めで美術の道へ進路変更。翌年、親父は山梨高校へ配置換え、新たに美術学校時代の後輩で、奇才として有名な三枝茂雄先生が赴任してこられました。私の高校時代の思い出は主として三枝先生との関わりが多いのですが、貌のいくつかのエピソードを披露させていただきます。しかし、その美術部の諸先輩や親しくご交誼いただいた知人の皆様からお聞きした話ですので、聞き間違いや知らぬまの誇張もあるかも知れませんがお許し願いたいと思います。

私が幼少のころ、須藤家では祖母が稲作を営んでおりました。私もよく田植えに連れていかれたのですが、雇い人の中に何人かのお兄さんがいたことを記憶しています。実はこのお兄さん方は甲府一高の美術部の生徒で、何と学校を公欠で我が家の田植えを手伝っていたとのこと。当然、田植えの後には家で酒盛りくらいのことはやっていました。裏春日のキャバレーで親父の付けで飲んだなどということも言った先輩もおられるほどです。

似たような話ですが、美術部では毎年夏休みのころに完全自炊の校外合宿を行っていました。山間地の民家を借りて実施した合宿のこと、近所のお百姓さんの鶏小屋に目をつけた親父が、「明日はあの鶏で一杯するか」といったことを生徒が真に受けたか、そう仕向けられたかは別と

して、捕まえて（盗んで）きた鶏で次の日は豪華な食事になったそうです。

お百姓さんが消えた鶏の行方を捜すのにたいした時間はかかりません。近くの民家で高校生が自炊で合宿しているのですから。抗議を受けた猿先生「他人のものを盗むとは何事か」と鉄拳が舞い飛び、そのあまりの激怒の様子に驚いたお百姓さんが「まあまあ先生、鶏はいいから許してやれし」と事なきをえた、という何やら芝居がかった安宅の関のような話です。

あと一話、これは親父が東京美術学校に在籍していた頃の話ですが、当時、鳥居雅隆画伯と上野の田端に家を借りて同宿していたそうです。そこを訪ねた同郷のS氏と、ちょうどお昼時でもあり昼飯にしようということになったそうです。二人で調理してくれたおかずは肉の塩茹で。実はこれは近所の野良犬の肉で、冷蔵庫もなかった時代のことですから裏の古井戸に吊るして保存していたとのこと。特に鳥居画伯は「これはうまい」と言つて鍋の上にギラギラ浮いた油をどんぶり飯にかけておいしそうに食されていたのを見て、S氏はこの二人にはとてもついていけないと思ったそうです。S氏がこの昼飯を食べたかどうかは定かではありません。

このようなエピソードは枚挙にいとまがなく、親父と関わった諸先輩の話を収集すればとんでもない本が出来そうな気がします。しかし、このような破天荒な側面をもった親父でしたが、芸術に対する見識の広さ、造詣の深さは人並みはずれて優れたものを持っていました。また画

家としての力量も、息子が言うのも変ですが天才的な感性を持っていたように思います。望月春江画伯の近親の方からうかがった話では親父が美術学校を卒業し郷里に戻ることを聞いた画伯が「須藤だけは山梨に帰したくない」と言われたそうです。でもその猿を捉まえて「俺が武蔵であれば猿さん、あんたは本位田の又八だ」と言われてつかみあいの喧嘩になった三枝茂雄先生と、今ごろは蓮のうてなの上で仲良くお酒を酌み交わしていることでしょう。

虞や虞や汝を如何せん

十組 大森正

世界史の蘊原先生。善光寺の方から通勤されていたという噂がありました。ペダルがギシギシ鳴るオンボロ自転車に覆い被さるように乗って校門を入って来られる。ちょうど本館の校門正面にあたる教室から声をかけると決まって右手を振り上げて「おう、おはよう、おはよう」と返答して下さいました。

私はこの先生の世界史、特に中国の歴史にまつわるお話が大好きでした。項羽と虞美人の話や安史の乱のさなかの玄宗皇帝と楊貴妃の話。

「ここで項羽は泣いたそうですよ。こんな目に遭わせて申し訳ない。今からでも遅くない。お前だけでも逃げろ、つて言つてねえ。」とか「こんな馬鹿な話はねえですよ。」などと歴史に情を加えて熱く語つて下さいました。

昭和四十一年十二月早朝、教室に一番乗りした私は、いつものように開けようとした、あの

古びて錆の音のする回転窓に、左手親指の爪を挟まれてしまいました。

一校時大好きな世界史の時間、痛みに耐えかねて脂汗を流している私に「おめえ、大丈夫か、授業はいいから早く医者に行つて診てもらつて来い。」

忘れもしません。北口の箭本外科。三人の看護婦に押さえつけられて麻酔も打たずにペンチで死んだ生爪をはがされました。

学校に戻つた私を氣遣つて下さいましたね。蘊原先生。

それから六年後に中学校の数学教師となった私が、今日まで三十三年間、数学そつちのけで折々に語り続けた「四方山話」。早春の花壇に咲くポピーの真紅を教室に摘んで「虞や虞や汝を如何せん。」と、なぜ演じ続けたか、誰も知りません。

あの先生、まだお元気でいらつしやるのですうか。

高校時代の思い出

十二組 正岡由美江

教師になつて三十数年、定年まで四年となりました。

自身の高校生のころの思い出といえば、やはり仕事柄、先生の思い出でしょうか。一年の時の担任は、数学の一本先生。HRで三分間スピーチというのをやらされた記憶があります。私の名前は後ろの方なので、回つてこなかったかな。一本先生のことでは忘れられないのは、東京オ

リンピックのこと。日本中が夢中になっていた
バレーボール決勝のテレビで劇的な勝利を飾った日本。その後のHRで「僕はテレビをあまり見ないので・・・」の一言に絶句。でも一木先生は、まじめな研究者タイプ。きつと数学の勉強をされていたんだと妙に納得したので覚えています。

二年は、数学の村松先生。大きな声で、元気モリモリ授業。真剣に学んでいたのを思い出します。このころでしょうか。体育の女の先生に呼び出され、体育系進学を勧められたのは。スポーツ大好きでしたので素直にうなずいたと思います。いろいろ調べて、受験校を真剣に決めました。

三年は、英語の保坂先生。苦手な数学の担任が続いたあとなので嬉しかったです。保坂先生には気に入ってもらえたのでしょうか。卒業してから、お見合いのお話をいただきました。まだその気もないころでしたので、母に断つてもらいましたが、今思うと、もったいないことをしたと思っています、先生！

もう四十年近くも前のことなのに、鮮明に思い出すことができるほど印象深い日々だったと思います。甲府に帰るたびに連絡をとり、会うのも高校時代の友。赤野さんと石原さん。二人の各々の出産祝いにかけつけ、かわいい赤ちゃんを抱かせてもらったことも。何より二人には恋の悩みを聞いてもらって励まされて・・・

懐かしいなあ。友だちつて本当ありがたい。親の死というつらい現実には涙にくれていたとき、

かけつけてくれ、そつと肩を抱いてくれた友。救われました。そのあたたかい思いやりに。

ありがとう・・・

だから、生徒に伝える言葉は「高校時代の友は一生の友。友達を大切に」ということ。

この春から、私にとつて最後の担任がスタートします。生徒一人ひとりに向きあつて、悔いを残さないようにしたいと思っています。

【恩師】甲府一高在学中は多くの先生方にお世話

になった。担任や教科の担当でなくても強い印象を受けた方もいる。卒業時に配布された「卒業生名簿」によると昭和四十二年三月時点で一

高におられた先生方は次の通りである。(教えを受けながら、須藤先生のように途中で勤務先が変わられた方はこのリストには入っていない。ご了承ください。敬称略)

▽全日制

【校長】高遠啓一

【教頭】斎藤操

【国語】猪股正彦 川手千興 橘田登 三枝満

仲沢哲 中村勤 舟山正泰 望月誠 山村鉄夫

渡辺弘

【英語】秋山美彦 猪股松太郎 加藤正明 久保

田泰夫 久保寺貫一郎 弦間正友 駒井意久

新海博恭 西脇光夫 広瀬重雄 保坂知己 水

上和彦 三輪久子

【数学】一木寿一 岩波政雄 金子文男 功刀幸

丸 沢登真 清水七之輔 萩原敦雄 古屋広保

村松茂行 守山源造 伊藤忠一

【倫社・世界史】内海潔【倫社】矢島俊一

【政経・地理】秋山正之【政経・商簿】長田詮

【政経】島津正美【地理】立川実造 村上一郎

【日本史】相川圭次 塚原美村

【世界史】蘆原幸 八田政季

【物理】進藤慈成 寺田和男 茂手木寿美夫

【化学・物理】小沢俊夫

【化学】中野正文 矢崎清 矢崎豊

【生物】遠藤文康 神宮寺誠

【生物・地学】松野民雄【地学】小林福造

【保健体育】須藤照子 根岸昭 野口竹次郎 平

林弘光 古屋武 丸茂光臣 八巻啓光 山田茂

【音楽】川崎良通【美術】三枝茂雄【書道】高田

昇

【家庭】生原タツミ【養護】菊田あい子

▽定時制

【主事】山下哲夫

【国語】小尾一郎 曾根啓順

【社会】八巻専蔵【数学】飯久保義雄【理科】小

林弘道【保健体育】深沢和彦【英語】川久保正郎【商

業】野沢進【家庭】深沢ヤエ子

▽通信制

【主事・理科】大木七郎

【社会】川地貞子【英語】有賀諄幸【数学】立川

正次【国語】依田静女 渡辺恵久【家庭】鷹左

右久子【体育】斉木坦

クラブ活動(体育局)

サッカー部の思い出

四組 三森茂

昭和三十九年に一高に入学すると、中学からやっていたサッカー部に入学した。一年先輩には高柳、富永両氏をはじめ、十人ほどが在籍しており、我々の年も相川、小田切、市川、篠原など十人以上の部員が集まった。一高は県内では強いといえるチームではなかったが、大学を卒業したばかりで熱血漢の平林先生が監督であり、三年生の夏に受験勉強が本格化するまでの二年半、よほどの荒天の日以外はクラブ活動に明け暮れることとなった。

当時の私は体重も四十キロ弱、身長も百六十センチぐらいと小柄だったが、体力増強を第一目標として、苦手の持久走やインターバル、今では体に良くないといわれるウサギ跳びなど、必死に皆に遅れないように練習を続けた。毎日二、三時間とはいえ、体力的には限界であり、授業の予習や復習はほとんど出来なかったが、両親から「サッカーをしているから」と言われないよう、成績の目標を定めて、中間・期末試験前一週間のクラブの休みの日は図書館に缶詰になり、睡眠時間も削って試験勉強に集中した。

その年の秋には東京オリンピックが開催され、運動部はその種目に優先的にチケットが配布され、千駄ヶ谷の国立競技場や駒沢スタジアムへ観戦に行ったが、中央高速もない時代で交通量

の少ない時代とはいえ、バスで片道四時間強もかかった。それでも当時最高レベルの試合を観戦でき、日本も釜本選手を中心に活躍したので、サッカーの人氣も徐々に高まっていったこともクラブ活動を続けられた遠因になったと思う。

昨今のJリーグの隆盛やワールドカップでの向上した選手の技術を見ると、当時の思い出とともに、一緒にサッカーをした仲間たちとの友情と信頼感は、大学時代、その後社会人となつてからもずっと変わらない、私の大切な財産となつていと思う。

【東京オリンピックのサッカー競技】十四チームが参加。日本はDグループ(イタリアが棄権)でガーナに2対3で敗れたもののアルゼンチンに3対1で勝ち、グループ二位で準々決勝に進出した。準々決勝ではチエコスロバキアと対戦、0対4で敗れ、メダルには手が届かなかった。チエコは準決勝でドイツに2対1で勝ったが、決勝ではハンガリーに1対2で負けた。選手には釜本邦茂、杉山隆一、川淵三郎、森孝慈などその後の日本サッカー界を指導者としても支えることになる人たちが多くいた。甲府一高OBの保坂司氏もメンバーで背番号1をつけていた。

あつという間の短い野球部生活

十一組 久保田三郎

私たちの三年先輩の時代から、山梨は全県一学区となり、希望さえすれば、山梨の北端の小淵沢からでも、甲府一高に進学できるようになった。野球少年だった私は、甲府一高に行つて野球をやつて甲子園に行きたいと、真剣に思っていた。

入学式の翌日、私は当初の希望通り野球部の部室を訪問し、監督の長田先生にすぐに面接をしてもらった。部員として登録され、その日から練習に参加することになった。

ところが、練習用のユニフォームをすぐに調達しなければならぬことが判明。田舎の中学では試合の時も練習の時も同じユニフォームを着ており、わざわざ練習用のユニフォームなど使ったことはなかった。すでに春休みから部員として練習をしていた同期がユニフォームを貸してくれ練習をすることになった。こうして、入学直後から憧れの野球部生活が始まった。

普通の日には二時限が終わると、早弁をしていた。(早弁をしているのは自分だけではなかったような気がするが、最初はやっとと恥ずかしかった)昼休みにはグラウンドの整備。砂地で石ころが多く、とても硬いグラウンドで、水を一生懸命まいて、トンボをかけても土が浮いてこない。内野を一渡り整備すると、昼休みはおしまい。休み時間も部室に行つて、たむろする。部室に行かないときは、机にうつ伏せになつて寝てい

た。

授業が終わるとすぐに練習開始。練習といっても、毎日お決まりの球拾い。一塁側を流れる相川の川原に球が飛んだら、その日は、ほぼおしまい。草がぼうぼうで、球が見つかる事はまれである。運悪く、最初に探しに行った者が見つけるまで、ずっと探し続けることになる。一塁側の玉拾いは鬼門だった。守備練習や、打撃練習は、新入生はほとんどやらせてもらえなかった。

夢を持って入った野球部も長続きせず、六月には退部届けを出していた。

ちなみにユニフォームを貸してくれたのは石原久嗣君だった。あの時はありがとう。

【高校野球】甲府一高野球部は昭和三十六年、四十三年と夏の甲子園出場を果たすが、我々の在学中は県大会で敗退した。三十九年は一回戦、韮崎工業に11対9で勝ち好調のスタートを切ったものの、準決勝で市川に5対0で敗れる。四十年は二回戦甲府工業に19対0（5回コールド）で敗れた。両年とも堀内投手を擁する甲府商業が西関東大会に出場、三十九年は決勝で1対0、四十年は準決勝で2対1でいずれも熊谷商工に破れ、山梨県勢の甲子園出場はならなかった。

四十一年は二回戦で峡北に8対0で勝ったが、準々決勝で甲府工業に7対0で敗れた。甲府工業は西関東大会も勝ち進み、甲子園出場を果たす。

テニスの青春

五組 原経光

昭和三十九年春、栄光の名門軟式庭球部として天下に君臨していた一高に、ペアで鳴り物入で勧誘された西中の原・長谷部組は「一高に来い。面倒みるから」と言ってくれた長谷川兄（現県幹部）との約束を果たし歓喜していた。

しかし、すぐに一高の現実の壁に直面した。幼なじみのペアの長谷部君が「俺は東大に行くのが夢だからテニスはあきらめる」と言ってテニスから去り、手のマメが彼はペンだこ、私は「ラケだこ」になった。私は「春男ちゃんは三月三十一日生まれだから浪人したと思えば構わんじゃん。一緒にインハイ行こうぜ」と説得したが、東大志向は強かった。同期にライバル校南中の笠井高芳君がいたが、彼も東大狙いのように入部しなかった。

当時の中学テニス選手で一高に來た仲間は小学時代は神童と呼ばれ、中学時代は文武両道といわれた者が多かったが、合点一高ではそうは問屋が卸さなかった。みな一応入部はしたものの、夏の合宿で挫折退部した選手が多かった。実名は割愛するが、退部しなくてもなら勉強に支障のない大学に進んだと記憶している。東大何て夢の夢また夢と自覚していた私は、「文武片道」を座右の銘と言い聞かし、テニスの道に進んだ。

幸いテニスのペア中西康君は個性豊かな不思議な魅力の男だった。その一つに、いつの試験でも英語の成績が、渡り廊下の掲示板の上位三

番当たり前に名前があるのが摩訶不思議でなかった。共に激しくテニスに青春の汗を流したが、負けた大会があると焼くそになり、禁断の映画を深夜の映画館で鑑賞したり、夏の合宿でもビールを酌み交わしたり、いつ勉強しているのか？全く不思議な奴だった。思い当たる節と言えば、石原裕次郎の歌が得意の私が、彼がよく口ずさむビートルズのHELPを歌うと「馬鹿っちゅうようだよ」と口を曲げ嘲笑したほどに彼は英語がよく出来た。後に慶應の法学部に進学した彼を見て謎は深まるばかりであった。

一年生の秋にはすでに新部長に抜擢されたと言うといかにも恰好いいが、実は先輩が東大を目指し始めたために、「お前が部を引っ張れ」と、またしても東大病の津波の影響を受けた。

インターハイに行く事が最大の目標だったから、出場を果たした時は至上の幸福だった。その年は後輩を連れ男女三チームが青森の全国大会に出たからテニス部は圧巻であった。以後全盛期は十一年間にも及んだ。しかも、冗談が冗談でなくなつて後輩にとうとう現役東大が四人も出たのには驚かされた。

さて、インハイ出場の喜びも束の間、進学校の壁はここで私と中西を襲った。夏休みに入ると、親が黙っていなかった。この私でさえ、長野と愛知の県境の村・新野学生村に強制送還された。彼も新宿予備校に送られた。しかし、密かにテニス用具一式を持参した私は、村にある阿南高校新野分校のテニスコートにお邪魔し、当時の若き教師信州大出のテニス選手藤倉先生と

練習に汗を流した。「知らぬは親父ばかりなり」であつた。

一方都会に出た中西は新宿予備校の屋上で、ラケットの素振りをしていたと言うから、馬鹿につける薬はない二人であつた。「本当に一高は辛かつた」と、それまで一高生活が、どちらかというと華やかで青春謳歌した私にとって、初めて灰色を自覚した。不幸はさらに続き、青森インターハイの入場行進で、皇太子と美智子様に向かつて手を振つた私の笑顔の瞬間が、NHK TVに映し出され、それを見た親父は烈火の如く怒りまくり怒髪天をついたと言うから愉快である。学生村に戻る際立ち寄つた家に、今度こそテニス終了と置いてきた一番の思い出のラケットを、親父にへし折られたのも今となつては、懐かしい思い出である。

あれから四十年近くが流れ、私は今母校への恩返しとばかりに休日は、鶴城会（OB会）を代表してテニスコートに立ち、男女後輩を監督指導している。四十年近くの時は流れても、青春を謳歌したコートの土の香、風の匂い、テニスを愛する後輩等と汗を流す幸わせに満たされている。

最後に女子テニス選手で青森インターハイに女子テニス部で初の偉業を達成した仲間を書かねば、「もう原とは付き合わない」の一言が恐い。女子部長向井愛子、清水洋子（旧姓小宮山）組である。彼女たちは文武両道の模範生と言つても過言ではない。今でも頭は上がらない。女性が強くなつたバイオニアであり一高では最強で

あつた。気にいらないのは、上野から青森まで私らが夜行急行列車で直角座席のまま十二時間の長旅だったのに、ホッテン（顧問猪俣正彦恩師）の甘やかして寝台特急で後から来たことだ。しかし面と向かつて文句は言えなかつたほどカリスマ性が二人にあつた。最後に、冒頭の長谷部、笠井両君が当然東大現役合格した事を書いて終わりにしたい。

【インターハイ】全国高等学校総合体育大会が正式名称。以前は各競技が「全国高等学校選手権大会」の名称で、全国各地で別々に行われていたが、昭和三十八年に新潟県を主会場にして都道府県にまたがって開かれた夏季大会から「総合」の名前が付けられた。名実ともに総合体育大会になったのは四十年の大分県を主会場に、九州地区で開かれた大会からで、以後一つの地区に競技を集める方式となつた。テニス部が参加したのは四十一年に青森県を主会場に秋田、岩手、宮城の東北地区で開かれた大会で、二万三千八百人余りが参加、開会式には当時の皇太子殿下、同妃殿下が臨席された。この年からサッカー、相撲が加入した。

クラブ活動（文化局）

アマチュア無線と電気物理部

七組 山田実

「帰りの切符は買っておく」。東京の秋葉原に行く時の鉄則だった。

私は兄と同じく、甲府北中の電気ラジオクラブ、甲府一高は電気物理部と歩んでいた。電気物理部には今回の東京同窓会で大活躍の八田政恭君も入部していた。私と彼は中学時代にアマチュア無線（ハムⅡHAM）の免許を取得しており、大きな顔をしていたようだ。

今では、海外出張や海外旅行は当たり前。E-mailで瞬時に外国人研究者と連絡できるようになった。社会機構の国際化とIT技術がこれほどに発展するなんて、我々の青春時代に誰が予測していたであらうか。あの頃の私達は、無線を通じて離れた人と会話できることが感動であつた。高校生の能力と金力では、東北や関西地域と交信が出来れば良い方で、北海道や九州は困難であつた。海外と交信しているハムは憧れの雲上人だった。それでも、冬の寒い日に布団の中にいたままで、金沢市内のハム仲間とお喋りすることは快感であつた。

今の若者が携帯電話を身から離さない気持ちが大いに理解できる。「おじさん達は四十年前にやつていたのだ」。

一高に入つて一年での身延山での研修や、二年での関西方面への修学旅行にもトランシーバ

を持って行った。修学旅行では、京都で地元のハムと合流し、大文字山へ夜のドライブに連れて行ってもらった。もちろん、クラス担当の藤田先生には外出許可を得ていた。八田君も一緒だった。

我々ハムは、「お空（電波）」で知り合った人と「地上」で逢うことを「グランドミーツイング」と言う。修学旅行で「グランドミーツイング」を行なったのだ。現在、インターネットで知り合った人達が、直接に逢うことを「グランドミーツイング」と言うらしいが、あれは我々のハム語である。

電気物理部（電物）の主な活動は、「アマチュア無線（ハム）」、「ラジオコン（無線操縦）」、「オーディオ（音響機器）」だった。これらの機器や装置を自分たちで作った。「作る」ことが電物の原点だ。設計図や回路図は、「ラジオ技術」や「無線と実験」等の科学雑誌に載っている記事を基にし、自分流の工夫も入れた。作製する機器が決まると、部品を購入する。作製は、シャーシの穴あけから始まり、部品のハンダ付けが主となる。電物の仲間は学生服が汚かった。ハンダに含まれている松ヤニが学生服に付いているのである。ハンダ付けが終ったら、いよいよスイッチを入れてみる。緊張の瞬間である。

多くの場合、機器が動作しない。「オカシナ？」。これからは勝負である。配線が間違っていないか、回路図とハンダ付けの箇所を追ってみる。「どこかに間違っている箇所があるはずだ」。間違い箇所を探し出すのが実力なのだ。見

かねた上級生が横から口を出す。配線を直す。今度は動作した。「やつぱり〇〇さんはスゴイ！」と下級生が感嘆する。やつと動作した時は、部室中が歓声につつまれた。最初の一発で動作した時など、製作者は英雄になった。

部品の購入は、甲府市内の電気店で注文したり、東京の秋葉原に買いに行った。普段から甲府市内のクズ屋さん（廃品回収業）を回り、使えそうな部品を買っておくことも多かった。

ご承知とは思いますが、東京の秋葉原は多種の電気関係物品が揃っている街である。電物仲間と一緒に秋葉原に何回か買い物に行った。普通列車だと甲府から片道四時間はかかった。朝六時に甲府を出て、十時ごろに秋葉原に着く。電気屋街を何度も回り、物品を買って行くのである。天井の低い建物の二階（ラジオデパートと言ったと思う）の食堂でカレーを食べ、午後三時には秋葉原を出て甲府に帰った。帰りの列車の中では、今日買った部品を点検し、明日からの作製に向けて気持ちワクワクだった。

秋葉原へ行く時に持っていたお金は、一〜三万円程度である。「アレも買おう。コレも買おう」。ツイツイ買い過ぎになる。お金が足りなくなり昼食を抜いた時もあった。でも、帰れないのは困る。そこで冒頭に書いたように、甲府を出る時に、帰りの切符だけは確保していたのである。

【秋葉原】明治時代に火除け地となり、秋葉大権現を祭る神社が勧請されたのが名前の起りという。戦後間もなくラジオ部品の専門問屋などを中心に電機店が相次いで中央通り沿いに店舗を構えた。さらに神田須田町界限で真空管などの組み立てラジオの部品を売っていた多くの露店が昭和二十四年のGHQの露店撤廃令で、秋葉原駅のガード下やその横などに移転して「ラジオセンター」や「東京ラジオデパート」などが開店。より集積が進んで、ラジオ部品、電気工事材料の街として発展していった。現在も「ラジオ」や「無線」の名称がある店・建物が多いのは、この当時に設立・命名されたためだ。昭和三十年代にはいると「三種の神器」といわれた白黒テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機がブームとなり「家電」の街に変貌、急速に発展する。

一 高写真部のあつころ

五組 小田敬

昭和三十九年、受験のプレッシャーから解かれ、希望に満ちて入学した私たちを待っていたのはひどく老朽化した木造校舎だったが、すぐに入学した写真部の部室と暗室はそれを上回っていた。場所は本館裏の木造校舎で女子更衣室へと続く階段下にあった。暗室といってもそれらしい設備は何もなく、その都度屋外に水汲みに行つて薬品をセットしなければならなかった。冬はものすごく寒く、印画紙乾燥機に足を乗せて暖をとったが、そんな環境に誰一人として不満を言う者がいなかったのは今考えると不思議

なことだった。

写真部の備品としてミノルタの一眼レフとサイドパーティ製の安い四〇〇ミリ望遠レンズがあり、東京オリンピックにはこの機材を担いで馬術競技を見に行った。部員たちの持っていたカメラもミノルタ、キャノン、ペンタックス、トプコンなどの一眼レフだった。

甲府市内の写真用品店は、ムコヤマ、モモセ、六三四堂があり、調合済みの薬品はどの店にもあったが、薬液を調合するために必要な薬品が揃っていたのは六三四堂だったように思う。それで写真の入門書に載っていたコダックの処方を見ながら、D72（印画紙用現像液）やD76（フィルム用現像液）を作った。定着液はREXという中外製薬の赤い缶入りのものを使うことが多く、印画紙は三菱製紙の月光を使っていた。

部活動は、文化祭での写真展のほかに、高校写真連盟の撮影会に参加したり、体育大会での写真をコンテストに出したりしていた。部員は他のクラブとの掛け持ちがほとんどで、そういうものには全く参加しない部員も多かった。私も生物部などに出入りし、顕微鏡写真や、犬の生体解剖を撮ったりした。犬の写真はその後何年か生物部の文化祭展示に使われ、新たに保健所の野良犬が犠牲になることがなかったという後日談を聞いた。

最も強く記憶に残っていることは悪い話で、年末近くに、部室にあつた定着液の空き缶に詰まったタバコの吸殻が火災予防のため見回り中

の教員に見つかってしまい、おまけに当時部室の引き戸をモンドリアンの抽象画のように塗り分けて顰蹙を買っていたこともあつて、部活動停止を言い渡されてしまったことだ。その処分発表の全校集会で写真部が応募した写真何点かが入賞したという発表も同時にあつたことが悪夢のようだった。

部室の戸板は取り替えられ、竹矢来のように丸竹を×印に打ち付けられていた。しかし部長だった私個人に対しては何らの処罰も下されなかった。

翌年度、教頭先生が異動になったことに乗じて、新教頭（斉藤先生）に部活動再開の陳情に行き、何とか許されて、写真部部长として最後の責任を果たせた。この教頭先生は私の父親の甲府中学時代の恩師で、何かの会合の折にこの先生から「君の息子に会ったよ、不敵な面魂をしていた」と言われたと父親が複雑な顔で話してくれた。

【日本製カメラ】メガネにカメラというのが一時期外国人が抱いた日本人のイメージだが、昭和三十年代に入ると、日本のカメラメーカーが相次いで新型機種を発売し、頑張れば高校生でも購入できるようになった。キャノンが三十六年に発売した「キャノネット」は価格が二万円を切った三五ミリレンズシャッター機で、日本橋三越の展示即売会場では人の波が押し寄せ一週間分の在庫が二時間で売り切れたという。また、その後の日本のカメラ産業を支える一眼レ

フも相次いで登場、三十二年に「ペンタックス」翌年に「ミノルタSR-2」三十四年には「キャノンフレックス」「ニコンF」が発売された。それらの普及型である「キャノンFX」（四万四千八百円）が三十九年に、また「ニコマートFT」が四十年に発売された。

オーケストラの思い出

二組 斉藤澄

一高に在学した三年間、私は音楽部オーケストラに属し、ヴァイオリンパートを受け持っていた。当時の音楽部は合唱とオーケストラの二部門よりなっており、七月末に開催する定期演奏会が最大のイベントであった。

しかし、オーケストラは名ばかりであり、実際にはヴァイオリンがファースト、セカンドをあわせて七人、ヴィオラなし、チェロ二人、木管五、六人、金管五、六人、打楽器なしと、全体あわせても二十人にも満たない構成員であった。三年生の指導のもと、今から考えるとまさに自分たちだけの効率の悪い練習を行っていた。

そんな拙いオーケストラであつたが、高校生にとつてはクラシック音楽を自分で演奏できる大切な場であつた。定期演奏会に近くなると、東京の音楽学校に行つた何人ものOBが帰ってきて指導してくれ、演奏会の当日はOBの友人たちも十数人加わり、合計五十人ほどの編成となつて、なんとか格好がついたものであつた。

三年間の中で強く記憶に残っているのは音大

ピアノ科に在籍していた先輩のソロでのグリークのピアノコンチェルトの演奏、および合唱部とやはり音大の音楽科に在籍していた先輩たちとのベートーヴェンの合唱幻想曲の共演である。子どものころからヴァイオリンを練習し、かつ小中学校通じて音楽の授業を受けてきたものの、それらは本当の音楽などとはかけ離れたものであったのであろう。先輩の演奏する迫力あるピアノの音や、度肝を抜かれるようなソリストの声、またソロにあわせるオーケストラの様々な楽器の音色はまさに若き魂を揺さぶるほどのものであり、そのときの演奏の情景がいまでも昨日のごとくと脳裏に浮かんでくる。

おそらくあの時の体験が今に至るまで私を音楽から離れられなくさせているのであろう。高校を卒業してから三十五年以上もたった現在でも、私は大学時代の友人たちと弦楽アンサンブルを楽しんでおり、音楽は私の人生に大きな潤いを与えてくれている。

【定期演奏会】甲府一高の音楽部が定期演奏会を開始したのは昭和二十五年、昭和二十八年には県内で初めてといわれるオーケストラが編成された。管弦楽だけでなく、声楽部門も充実し、三十年代に入ると平野忠彦氏や林ひろみ氏らの後プロの音楽家となる人材を相次いで輩出した。三十九年からは毎年続けて交響曲をプログラムに取り入れ、三十九年は「未完成」四十年には「軍隊」四十一年には「驚愕」を演奏。当時、日比谷、両国、甲府一高の三校が高校オーケス

トラとして高い水準にあり、演奏活動は音楽関係者から注目を集めたという。五十二年以降音楽部自体が休部となり、活動は途絶えた。

書道部で明け暮れた一高時代

十組 二宮喜代子

一高時代の思い出は何と言ってもクラブ活動のことである。「書道部の〇年」に在籍しているような感覚で通学しており、私の居場所はずの仲間の中間にあつた。朝はまず部室に顔を出し、昼休みにはお弁当を持って集まり、放課後はおしゃべりに花を咲かせて、時々書道をしていった。書道部のおかげで所属の欲求が満たされていた三年間であつた。

当時の顧問は書道家の高田（こうだ）昇先生で、活動は高田先生の「楽しくて、面白くて、ちよつと毒がある」個性的な性格に大きく影響されながら大変活発に行われていた。中でも夏のキャンプと県民会館（当時は県庁の東側）地下ホールでの書道展は印象深い行事であつた。

毛布とお米を入れたリュックを担いで行った白樺湖キャンプ場。「おいしい、おいしい」と喜んで飲んだ味噌汁は、実は〇〇君が、地面に落とした鯉節をかき集めて作ったものだった。また、ルール違反だらけのゲームや、ヨシモト顔負けの昔話のパロディー劇に、お腹がよじれるほど笑い転げた。全く開放的で楽天的でハチャメチャな野外活動であつた。

しかし、キャンプ後の夏休みはほとんど毎日、書道展に向けての準備であつた。蒸し風呂のよ

うな書道室で先生の指導の下、作品完成まで真剣に紙に向かった。その一方で、資金集めにパンフレットの広告掲載依頼にグループで歩いた。一枠二千元くらいからだつたが、頭を下げてでも簡単にお金は集まらず、親の有難さが身に沁みた。その後、パンフレットの編集、作品の搬入・展示・撤収と一連の作業を協力して（力仕事は先生と男子が）行つた。

高田先生をはじめ先輩方の助け（これがうれしかった）があつたにせよ、高校生としては完成度の高いプロジェクトワークであり、ノーテンキであることが求められたキャンプとも併せ、私の人生観の一部を形成した貴重で何にも変えがたい体験であつた。

【県民会館】県庁の東側にあり、大きなイベントに使われたのはじめ、甲府一高でも書道部の展覧会や音楽部、ブラスバンド部の定期演奏会などに使用した。東京タワーを設計した南アルプス市（旧櫛形町曲輪田）出身のOB内藤多伸博士の設計で、公会堂と会館の部分からなり、公会堂は昭和三十年に着工、三十二年五月に完成した。四階建てで、大ホール（一、二階合わせで千五百八十八席）映画講堂（三百三十六席）講堂（可動式で三百七十五席）華道室、茶室などがあつた。会館は三十三年の着工で三十五年の完成。地上八階、地下一階建てで、主にオフィス用として使われたが、地下に二つの展覧会場があつた。平成十一年七月に閉館となった。



コナン・ドイルと桔梗

三組 川野昭雄

あこがれの甲府一高に入学出来た、というこ
とで我々は入学当初とてもはしゃいでいた。最
初の全校生徒集会のときに三年生から「一年生
は自重せよ」と厳しい叱責を受けた。新人生の
ほとんどが各中学の優秀生ということでそれぞ
れ互いに張り合っていた。

私はある同級生にコナン・ドイルの謎解きの
問題を出して、正解だったら学生食堂のカレー
ライスをおごる約束をした。学生食堂のメニ
ューは、カレーライスとラーメンの二種類しかなかつ
た。カレーは肉なしのルーに、これ以上細切れ
できないほど細かい豚肉をスプーン一杯ほど放
り込み、ライスに掛けたものだったが、それ
でも空腹の我らには極上の食事だった。ラーメン
も今ならコンビニのほうがよくばりましたと思
われるしろもので、どちらも五十円であった。

コナン・ドイルの謎とは英文字のアルファベッ
トの順を一段ずつ下げて書き出した英語の文章
だった。英語の文章では一番よく使用される「S」
が「T」であるとヒントを出したために彼はす
ぐに解いてしまった。彼は誰だったか。現在弁
護士をしている笠井治君だったような気がする
が。

また、今でこそ、どの家庭でも子供が欲しい
本はいとも簡単に買ってくれる時代となった。

旺文社の蛍雪時代は今日八百四十円だが、我
らが時代は二百二十円しており、なかなか毎月の
購読は難しかった。大学入学のノウハウもた
くさん載っており、仲間うちで回し読みするほど
人気があった。毎月、英語、数学等の非常に難
しい問題が載っており、日本全国の大学受験生
が競って投稿していたため、全国レベルの順位
に載るのは至難の技のようであった。

その中で甲府一高から毎月ほとんど必ずその
正解順位の高いところに入っていた生徒がいた。
投稿名では「桔梗」と言っていた。この蛍雪時
代にいつも載っていた桔梗子は日銀から武蔵野
銀行専務になった大芝芳郎君ではないかと推測
している。

【蛍雪時代】山梨県出身の赤尾好夫氏が、通信
教育、学習参考書の出版などのため昭和六年に
興した旺文社から発行されている月刊誌。七年
に発行された会員通信誌「受験旬報」が前身で、
十三年に「蛍雪時代」と名称を変更し、月刊と
なった。受験関係の情報が少なかった昭和二十
一十年代は高校生の必読書だった。旺文社か
らは「中一時代」など学年別の雑誌も出していたが、
現在発行が続いているのは「蛍雪時代」だけだ。
旺文社の本では昭和十年に出版され現在も売れ
続けている超ロングセラー「英語基本単語熟語
集」(通称「赤尾の豆単」)も受験生には忘れが
たい。

受験生時代の断片

十二組 伏見和史

われわれ世代は、ベイビーブーマーの真つ只
中。またの名を、団塊の世代という。いまでは、
破壊の世代とも呼ばれているらしい。いわく、
大学を壊し、年功序列賃金を廃止させ、年金制
度を崩壊させつつあり、やがて訪れることが確
実な墓場用地をも払底させるのだそうだ。われ
らが甲府一高は、当時は一学年が六百人を超え
るマンモス校。わたし自身、圧倒的な生徒の波
に埋没しており、断片的記憶しかない。

その断片のひとつ。高三の二期期の期末テス
ト時だったと思う。もうすぐ大学受験だとい
うのに、保健、体育、美術、音楽などもテスト科
目とされた。そこで、級友達への便宜のため、
これらの科目の予想問題・回答例集を作成し配
布しようと企てた。もちろん、有料配布を想定
していた。一部五十円、販売目標百部。予想問
題・回答例の作成の責任者は小林寛、資料調達・
製本の責任者はボク。

放課後、大きな袋を持参で学内を隈なく徘徊
してカラの牛乳瓶集荷に精出し、これを学校本
館の西端にあった購売部に持ち込み換金(三百
円くらいだったと思う)のうえ、わら半紙とガ
リ版用原紙を購入して資料調達完了。並行して、
ああでもない、こうでもないと夜つづいて大騒
ぎしながら予想問題・回答原稿を作成。ガリ切
り、謄写版印刷・製本のため、生徒会の部屋を
小林の顔で長時間使用した(彼は生徒会長であつ
た!)。期末テスト開始直前にようやく三十ペー

ジの冊子完成。この間十日あまり。

しかしながら、フィージビリティ・スタディの甘さから、営業不振で、最終販売数量二十冊。加えて、自分たちのテストの準備をする時間がまったくなく高校最後の期末テストはあえなく玉砕。売上金を元手に大勢呼んで豪華な大宴会をするつもりが、結局は、「奥藤」のカツ井とざるそば（一人分二百円程度）のみに化けてしまったが、実にうまかったと舌が記憶している。

そして、これらのバカげた行動は、数カ月後に控えた大学受験を一時忘れさせてくれたのである。実際、とても楽しい時間をすごしたのであった。

小林寛は若くして病没してしまった。わたしは団塊世代の一員として今後も生きていく。われわれ世代という大きな塊の動きとともに破壊を繰り返しながら。それが、残っている者の責務だと感じている。

【団塊の世代】作家（当時は通産省の官僚）、堺屋太一氏が一九七六年に出版した「団塊の世代」

による命名。昭和二十二年から二十六年ごろまでに生まれた戦後のベビーブーマーを指すが、狭い意味では二十二年二十四年の三年間だけを指す。この間はその直前より約二〇%も出生者が多く、二十二年は二百六十七万人、二十三年は二百六十八万人、二十四年は二百六十九万人となっている。この世代は大学受験でも厳しい競争を引き起こした。文部省は大学志願者急増を受け、四十一四十三年の四年間に約十七万

人の入学者増加を図り、合格率六〇%確保するという対策を取ったが、四十二年には浪人が約二十五万人に達した。

校長室から思い出している

八組 近藤陽一

入学当初、片道十キロ余りの慣れない自転車通学、不親切で分からない授業、視力悪化等々でへとへとだった。それでも放課後は将棋を指した。英語得意の小林君、数学ができた一之瀬君（故人一之瀬ギター教室・一之瀬薬局）。中間テスト明けの「シエルブルーの雨傘」。武川村黒沢の小澤。自転車で遊びに来てくれた玉穂の小沢耕二。同中学の池谷剛、小澤哲士、荻原正、小島康夫、水谷千恵子等が目につかんでくる。

二年の時、毎日通った県立図書館、野中敏美、上山公夫。県庁の地下食四十円のラーメンが旨かった。甲西町の磯部幸平（西川君の遺影を胸に）、清水義行、新津元等との修学旅行。三年でも、山岳部の田村伸一、野球部四番バッターの丹沢章（元ブラジルコヒー農園経営）、遠藤富士雄等と放課後将棋で遊んだ。浪人時代に誘ってくれた山中湖キャンプ、井上文博、小中沢謙三、渡邊弘之等。横森良照、古屋光治等とは酒を飲み、歌い、一晩中議論した。懐かしい。

恩師では、熱意溢れる国語の三枝満ちゃんと数学の鬼Qこと村松。測定記録を根拠に防寒対策を掛け合ってくれた古文の仲沢。トンチンカンな和訳にも、どうしてそう考えたのかをじっくり聞いてくれた英語の猪俣お祖父ちゃん。授

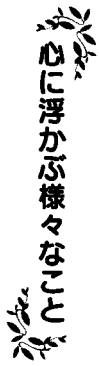
業の真ん中で人生の指針となる楽しい小話、生物の日向。柔道・相撲等きちんと教えてくれた体育の平林。オリジナル曲を誉めて弾いてくれた音楽の川崎。二年担任世界史立川。三年担任猪俣眼ちゃん（正彦）。各先生方の表情や言動が昨日のことうによりみがえってくる。

まだまだ、お世話になった恩師や友人が大勢いる。故人となられた方も、私の心の中でいつも生きている。支えられて生きていることを実感する。三十八年間、毎年続いている私たち三年八組のクラス会・・・

「わー。きやー。」子供たちの歓声に、校庭に目を向ける。雪合戦をしている。いつまでも健やかにと願わずにはいられない。私が支えられてきたように、子供たちを支えていかなくては、と意を新たにす。

【県立図書館】明治三十三年に開設された山梨

県教育会付属図書館が、昭和六年に教育会から県に寄附され県立図書館となった。今の建物は甲府市丸の内二丁目（旧百石町）にあるが、この地に移ったのは昭和四十五年で、それ以前は県庁の敷地内（元甲府中学敷地だった）にあった。この時代の建物は根津嘉一郎氏の寄付によって昭和五年に完成した鉄筋コンクリート二階建て。終戦後一時アメリカ軍政部に接収されたが、二十五年に、再びこの建物が図書館となった。三十六年に一部増築された。現在さらに図書館の移転計画が進行中で、同期生の福岡哲司君が平成十七年四月から館長となった。



世界の中心を出て愛を叫ぶ

六組 辻敏子

今思うと、かなりぎこちない関係でしたが、高校時代の私にとつて、甲府一高は、世界の中心でした。威厳ある広瀬校長、心温かい担任の新海先生、熱意の三枝満先生、的確な説明の一本先生、文学青年のようだった中沢先生など、優れた先生方や、知的で良識のある友人たちにあこがれの心を掻き立てられました。非行問題などで、規制の多かった中学生活から、それまで経験したことのない、自由で知的な世界の中に解放された、という気がしました。

冬でもストーブがなかったので、冷めたお弁当を食べると体が震えるというような経験もありましたが、全体的には、恵まれた生活だと感じていました。ただ、その生活の中に、もっと自由かつ積極的に関わることができていたら良かったのに、という気がします。ぎこちない関係というのはそういうことです。

甲府一高には、誇れるものがいくつもあります。まず、強行遠足。旅情豊かな小諸コースが大好きでした。千曲川沿いの紅葉には目を奪われました。あれほど美しい紅葉は、今に至るまで見たことがありません。音楽部の活動も印象に残っています。私自身はクラリネットをやったもののあまり上達はできませんでした。が、楽器を演奏する友人たちはみんな素敵で、指揮を

してくれた先輩は輝いていました。セーラー服が多かった中で、ブレザーだった女子の制服も進歩的で好きでした。特に知的かつ柔らかな曲線のつりの付いたスカートがお気に入りでした。

甲府一高のすばらしさはよくわかっていましたが、卒業してからも積極的に関わる気持ちにはならず、同窓会にも一度も出たことがありませんでした。甲府一高の思い出も風化し、なくなりかけていました。そこに、昨年、細々と交流を続けてきた友人から、東京同窓会の準備のための幹事会への誘いがありました。私の彼女への態度の変化を読み取って、誘ってくれたのかもかもしれません。一高を卒業してから三十八年が経っていました。一高の知的世界への思い出がよみがえってきました。期待がつのりました。私もその中に関わっていけるという予感もありました。

幹事会の活動を始めて半年経ちました。再会した友人たちの多くは、高校時代には知らなかった人たちです。私のように卒業後一度も同窓会に出たことのなかった人もいました。しかし、甲府一高時代を共有したという思いで、なつかしさがありません。さらに、みんな年輪を重ねて、精神的に豊かになっていました。そして、その友人達が作り上げる世界は、高校時代よりずっと深く、包容力を増していました。私もその世界の中に自由に入っていくことができました。

甲府一高という世界の中心から離れたけれど、そこを巣立った友人たちが、今、私の周りにいます。こうした、友人たちとの関わりに充実感を覚えます。この関係がずっと続いてほしいと、声を大にして叫びたい気持ちです。

を覚えます。この関係がずっと続いてほしいと、声を大にして叫びたい気持ちです。

【制服】女子の制服はスカートにブレザーと決められていたが、入試合格時に配布された服装についての文章によると「ただし必要な場合はスラックスを使用してよい」となっていた。一高は服装にはうるさいことをいわないという印象があるが、男女ともソックスは「白または黒系統のものを用い、長い靴下の場合は黒を使用」「外套の着用は認められますが、華美にならぬよう黒または紺系統のものを着用するように」「通学用の靴は白または黒のズック或いは底がゴムまたは化学製品の靴を使用」などと細かく規定していた。また、男子は「黒の詰襟服を着用し、正規の襟章、学年章およびボタンを使用」「帽子は学生帽として正規の徽章を附して着用」と書かれている。しかし、帽子をかぶらぬ生徒も多く、卒業アルバム掲載の顔写真の帽子のサイズが合っていないのは、撮影時に一つの帽子を何人もで回してかぶったためだ。

我が時代の甲府一高

四組 卓哲夫

我が時代の甲府一高と言ったら、総合選抜前で天下の名門ですから、それは優秀な面々の集まりでした。私はその中で、(頭脳を)使えば君たちには負けないと呟きつつ、生来の物ぐさで使わずに終わってしまった青春の日々でした。でも、受けた教えや取り組み方などは現在でも指針として役立つっており、よい環境にいたことを、誇りとともに感謝しています。

当時の建物といえば、正面の古色蒼然たる本館、右に図書館、左にミニ安田の講堂を覚えていきます。現在はすべてなくなりました。花びらでなく、紙ヒコキが舞った本館が懐かしき思い出されます。そうそう、講堂を奥に行くと学生食堂がありました。ラーメンが一杯四十円、味は忘れしました。

思い出深いのは強行遠足、近年の事故は誠に腹立たしいですが、この精神は崇高で継続すべきと思いました。真つ暗な峠道を友と無言で励まし合い、引つ張り合つた経験は貴重で、パートナーの重要性を心から感じたものでした。

先生には恵まれました。三年の担任の一本先生は、当番幹事の時にお会いした時も、ご健在でうれしく思いました。しかし、私の父の同級生でもある数学の田草川清治先生、功刀幸丸先生は他界されました。愛称が私と同じ「たぐさん」の切れのよいシャープな教え方は、心に残っています。最近家の娘に「お父さんは同じことを必ず二度言う、ダサイ」、カミさんには「年寄

り」と言われていますが、「功刀先生の尊い教えだ」と言っても分かつてもらえず、辛い日々を送っています。

今思えば、高校時代は、人生の基礎を作る重要な時期だったんだなあと感じています。その時期に甲府一高にいられたことを幸せに思い、母校を誇りに思っています。この環境と精神は変わることなく伝承されてほしいと思っています。ありがとうございます。

【学舎】私たちが学んだ校舎本館は昭和四年に建てられた。甲府中学が、舞鶴城内から西山梨郡千塚村(現甲府市美咲)に移転した際に建設されたもので、鉄筋コンクリート三階建ての耐火耐震構造だった。この時、講堂なども建てられ、建物の総坪数は延べ二千坪を超え、総工費は三十万六千七百七十五円だったという。音楽館は二十八年、体育館は三十年、図書館は三十二年にそれぞれ完成している。

本館は平成四年に解体され、翌五年に新校舎と新体育館が完成した。講堂も昭和五十六年に「百周年記念館」として生まれ変わっており、在学中をしのぶ建物は残っていない。

心の奥に夢のよびこ

五組 川崎秀樹

バス停の一高前で降りると、ほとんどいつも駆け足で教室に滑り込む。特別な日には、今は亡き教員の父と一緒に登校だったので、時間的にゆったりしていたが、さすが校庭の中まで父

と一緒に車で乗り付けるのは恥ずかしい。故に途中からバスに乗ることを余儀なくされる。

高校一、二年の時は校門を入って、右のほうの教室であつた。時間のゆつたりとした時はその近くに有つたラテン語の書かれている男性裸体像を眺めて教室に向かった。

Mens san in corpore sano 入学案内の時に教師によって説明を受けたと記憶しているが、ここイタリアでは正式な意味として「健全な精神は、健全な身体に(宿ることが望ましい)」という、現実にはあまり存在しないことを嘆いている意味合いが強いのであるが、そんなことは高校生の我々には考えられなかった。知恵も身体も一緒に鍛えようと勇んで登校したものだ。

強行遠足という伝統行事は、それを代表しているように思つた。高校生活を送ると三回は経験する。野辺山に行くとしじみの味噌汁が出るので、そこまでは何とかと豆の出来た足を引きずりながら動かなくなっている脚を手で持ち上げながら歩みを進める。最初の勇ましい出発陣太鼓などこれっぽちも思いも出さない情けない状況である。

最後の年、つまり三年の卒業の年は、「人生を賭けて小諸に」のような大げさな気分で出発したのだが、普段運動とは全く関係のない生活をしていると、急に心がけを変えてもできる相談ではなかった。女子の出發が何と途中の駅からなので、それには会いたくないと途中で中止する者が多かった。だが韮崎で早々終わって自宅に帰って受験勉強するのがいる、と聞いたとき

は良い気分はしなかった。最初から走りつづけて新記録でテレビのインターヴィウに出た同級生には尊敬の念を密かに抱いたものだ。

一年のときはオリンピックの年で、東京に授業日であっても出かけた。水中から見るのだったら面白かったであろう水球に、学校のクジで当たって行ったのであるが、その時のチームがイタリアであったのはミラノに居る現在との繋がりがあったのであろうか。

ミロのヴィーナスも来たので、東京に友人達と早朝列車で出かけたのも懐かしい。初めて見た大理石の肌のような色合いと滑らかに感動して帰って来た。

教室の前に面している応援部の部室に、他の高校から殴り込みをかけられていたこともあった。実はそのすぐ横に存在しているサッカー部室の猛者連中が、じつとそれを聞きながらも出ないで、涙をのんで我慢をしていたのであった。

一年上の先輩が中庭に転がっていた細長い石柱に休み時間や放課後、一人で面の浮き彫りをしていたのも印象深い。今考えると彫刻に適している石材はちゃんとあるのであって、どれでもいいのとは違う。あれはかなり黒い石材だったから、硬くて大変だっただろうと思う。

女子の制服も今思えばかなりダサイ感じであるが、あの時ファッションに富んだものを身に着けられたら、勉強する意欲どころの騒ぎではなかったかもしれない。

甲府一高。

その名前は心奥に琴のように存在する。どん

な弾き手に出会っても共鳴する楽器である。強く、弱く、時には揺さぶられる如く涙が自然に頬を伝う。

『ミロのヴィーナス展覧会』昭和三十九年四月八日から五月十五日まで東京・上野の国立西洋美術館で、五月二十一日から六月二十五日まで東京都美術館でそれぞれ開かれた。ミロのヴィーナスは一八二〇年にギリシアで発掘された大理石像（身長「二〇四センチ」）で、「世界の美神」として、美術の教科書には必ず登場するルーブル美術館所蔵の有名な美術品である。朝日新聞社がフランス政府から貸与され、特別公開した。展覧会はヴィーナス像一点だけが展示されるという異例のスタイルだったが、日本にこれだけの超一級品が来る機会ほとんどなかったため（その後「モナリザ」も「ツタンカーメン」も来た）初日から鑑賞者が押し掛け、東京だけで八十三万人が入場した。

あのころの僕ら

三組 深澤政年

日蓮宗総本山身延山久遠寺への参詣の宿場町であり、駿河の国からの舟運の港町でもあり、さらに古典落語や富岳三十六景にも登場する山梨の小京都？「鰻沢」から身延線に乗って、甲府北口に着き、それから徒歩で太宰が石原美知子と住んだという美咲町の通りを抜けて、あのずつしりと重みのある、伝統ある石造り風の校舎にたどり着く。

それは、清流富士川のほとりの小さな町中学校から来た田舎中学生の私の前に、いろいろな意味で大きな存在として現れ、そこから輝かしくほろ苦い高校生時代がスタートしたのだ。「生きていくことは人と出会いながら変わっていくこと」と誰かが言っていたが、そこで僕はいろいろな師や友と出会い、確かに変わっていく、その変化とともに青春を生きていたのだと思う。

皆秀才に見えた三枝先生の一年男子クラス、蝶ネクタイの制服のクラスメイトと袖ふれあつた古屋先生の二年男女クラスを経て、思い出深い三年三組男子クラスにたどり着く。担任は国語の中沢先生。教壇に立つ時は、いつも下を向いて恥かしそうに授業を開始する。静かにしなさいなどという言葉は一度も聞いたことがなかったが、ざわざわとした教室はいつのまにか静寂になつていった。そういう先生だった。ひとりひとりの内面までよく見られていた先生で、困難な局面では必ず声をかけてくれた。それだけで救われたように思う。急逝されたのは本当に残念である。

クラスの外では、いま言うところの気恥ずかしくなるような文学部という部に属し、甲府という洗練された？都会の夢見る文学少女たちとの邂逅があつた。

憧れの後輩Iさんたちや、同級生のKさんHさんなど才色兼備の緑の黒髪の乙女が、校庭隅のうす暗い部室のドアを開くと、静かに佇んでいたのだ。そこはあまたの秀才の中で劣等感に

苛まれ、未来への漠然とした不安に怯えていた僕らの唯一のオアシスだった。「ありの実」という機関誌に書いた、重ぐるしい受験をテーマとした拙文もどこかにあれば、今は読み直してみたい衝動にかられる。

「日に新た、また日に新た」という校歌の一角を卒業し、三十八年経つ。その後も多くの人とめぐり会い、わたしも随分変わったように思う。基点は一高からであった。そこには確かに僕らだけの青春があった。あのころを支えてくれた師・友人にこころをこめて感謝したい。そして同時代を生きた同窓生に、これからの人生も辛多かれと祈りたい。

【日に新た】校歌に歌われている「日に新た、また日に新た」は儒教の経書「大学」の中の「苟日新 日日新 又日新（まことに日に新たに日々新たに 又日に新たなり）」が原典になっている。この文言は「校是」でもある。大正十五年に建造され、旧校舎本館屋上に設置されていた鐘も、当時の江口俊博校長により「大学」を典拠に「日新」と命名された。（校歌の発表は昭和二十三年だから、時間的には当然日新鐘の命名の方が先。ついでに食堂があった「日新ホール」の完成は三十六年）日新鐘は現在、平成四年の校舎全面改築に伴い、中庭のアトリウムに設置されており、卒業式の日のみ生徒が母校への惜別のため撞くことを認められているという。

甲府一高時代の思い出

九組 堀内万寿夫

思い出とは、自分の心の中で浄化され、甘酸っぱい青リンゴのような味を醸し出すものである。ご多分にもれず、僕も甲府一高時代のことを思うと何とも胸がうずき、楽しいことしか頭に浮かばない。

ビートルズの「イエスタデイ」を口ずさみながら、通学のための自転車 forcefully こいだ青春。ちよつと不良っぽい男子学生たちに、いつもガールフレンドをとられていた不器用で純粋な僕。

学園祭の最終日の秋の夕暮、校庭で実施したキャンプファイヤーの周りでフォークダンス。これら単純に思い出を羅列するだけでは、まだまだ言い尽くせない甲府一高時代。

なんと言っても、自由放任つまり生徒の自主性に重きを置く教育方針は、今では考えられないものであろう。それでも生徒は自ら矜をただし、自分なりに理想を追って高校生活を謳歌していた。

優秀な生徒はもちろんのこと、一般の生徒も甲府一高のカラーというものを身に付けていたと思う。

僕も、勉強はあまりできなかったが、甲府一高の生徒だということを、校外でもなんとなく周囲に感じさせていたようだった。

私事であるが、息子が今甲府一高の英語科に通っている。二年生である。以前、入試の前に英語科の担当教師にお話をうかがいにいった。

そこで、「英語科は国公立を目指します。早稲田、慶応は滑り止めです」といわれ、明治大学卒業の僕は恐縮してしまった。しかし同時に、現在の甲府一高英語科も、僕らの時代、否、それ以上にしつかりしていると認識して、安心した次第である。

【ビートルズ日本公演】昭和四十一年六月三十日、七月一日、二日の三日間、日本武道館で行われた。メンバーはピンクに塗りかえたキャデラックに乗って会場に着いたという。初日、前座は「ブルー・コメッツ」や「ドリフターズ」が務め、ビートルズは「ロッキン・ロール・ミュージック」「イエスタデイ」など十一曲を演奏した。入場者は葉書による抽選で決められが約三万人の枠に対して二十万八千八百五十通の応募があった。料金は二百円から千五百円。当日は会場周辺には制服・私服合わせて約千七百人の警察官が配備されたが、会場で少女四人が頭痛で手当を受けただけで、大きな混乱はなかった。しかし、キップも持たず会場周辺に来る若者も多く、ビートルズ来日中に補導された青少年は八千三百七十人に上った。なぜか多くの大人はビートルズが嫌いで、武道館を使用することにも強い横やりが入った。

強行遠足

秋の信濃路

十一組 塚脇一帆

金木犀の甘い香りがどこからともなく漂い、日一日と秋の深まりを感じはじめ頃、決まって思い巡って来るのが強行遠足の思い出である。そして、それとうまく重なり合い、互いに強く印象付け合ったもう一つの思い出がある。それは、あのころ一世を風靡した話題の映画「愛と死をみつめて」である。病魔にとりつかれつつも、純粹な愛とともに、はかなくも短い生涯を閉じた主人公「ミコ」を若き日の吉永小百合が迫真に迫る演技をもつて演じたあの映画である。強行遠足の翌日休校日に、まだ棒のようになっている足を引きずりながら「甲府日活」に行き、男涙に感動したものである。

この映画と強行遠足の思い出とが、なぜ互いに重なり合い一層強い印象となつたのか。それを結びつけた接点は、青山和子が切々と歌い上げたこの映画の主題曲の一節、「二人で夢見た信濃路を、背負って歩くと云ったマコ」のくだりにある。ついに夢かなわなかった二人の信濃路の旅と、一方において、自らの足でたつた今歩いて来た秋の信濃路の感動とがこの主題曲をして、ものの見事に重なり合い、相乗効果を生み、爆発的に感動を高め合つたのである。受験勉強に日夜明け暮れていた当時ではあったが、我が青春時代の甘酸っぱい思い出となつたのである。

平成十四年十一月、それまで三十年間勤務した東海銀行（現UFJ銀行）を退職した直後、ワイフと二人でノンビリと日帰り電車の旅を試みました。それは勿論、秋の信濃路・小海線の旅でした。

朝、長野新幹線で東京駅をたち、途中軽井沢を散策、昼過ぎ小諸駅に到着。四十年前、当時の強行遠足の最終目標地点がこの小諸駅でした。二年生の時、制限時間ギリギリでこの駅に辿り着いた時の感激が甦ってきました（百四十九番）。遠足とは逆コース、小諸から小淵沢まで二時間十五分の旅でした。

当日は小春日和の良い天気でした。煙たなびく浅間山、佐久盆地ののどかな田園風景、千曲川の清流、ススキの穂の群れ、青く澄み渡った空、そして例えようのない山々の紅葉の素晴らしさ、雄大な八ヶ岳連峰、清里野辺山の高原風景。このノンビリ一日日帰り電車の旅も楽しい思い出となりました。

向かいに座っていた充実しきつてしまった我がワイフと、年々円熟味を増しつつある吉永小百合とを重ね合わせる幻想の旅でありました。

【愛と死をみつめて】オリジナルは軟骨肉腫のため亡くなった同志社大生の大島みち子と中央大生河野実の往復書簡を集めた本。昭和三十八年十二月に大和書房から出版され、三十九年だけで百三十五万部を売るベストセラーとなった。三十九年四月に大空真弓主演でTBSでドラマ

化され、八月に再放送、十二月には異例の再々放送も行われた。青山和子が歌った主題歌も大ヒットし、この年のレコード大賞を受賞。映画は日活が、吉永小百合（出版直後に本を読み、映画化を強く望んだという）と浜田光男の主演、斎藤武市監督で制作、三十九年九月に公開された。

岩村田と幻想

三組 三塩珠樹

強行遠足は一勝二敗であった。一年生では、野辺山止まり、二年生では岩村田止まりとなり、三年生でやっと終点の小諸に達し、一勝をあげた。そのためもあってか、学校から小諸までの通過点のうち、記憶に強く残っているのは、野辺山、岩村田の二カ所に、小海をいれて、三カ所となる。

野辺山では、しじみ汁を飲んで一休みしたのが間違いだつた。横になつているうちに風邪をひいてしまった。既に電車はなく、清里の駅で夜を明かし、一番列車に乗った。寒かった記憶がないので、ストーブがあつたのだと思う。小海は、りんご。夜明けを迎えて七時ごろと思うが、りんごをいただいた。おいしかった。うれしかった。

岩村田での思い出は、二年生と三年生の双方にある。二年生の時にばてた岩村田である。岩村田までは、初めての行程。岩村田とその一つ前の中込の距離は四キロメートルと表示してあったと思う。一つの区間としては、四キロメー

トルは長いほうではない。自分では四キロは歩いたつもりである。それがなぜか歩けど歩けど岩村田に着かない。そんな気持ちで岩村田に着いた時、歩けなくなっていた。その後、小諸から帰ったと思うが、小諸までも、小諸駅、甲府駅の階段の上り下りも記憶がなく、ただ岩村田で動けなくなった記憶しかない。

三年生では、前回の経験もあり、岩村田に無事到着、早く終わらせたいという気持ちから、小諸まで小走りで走ったと思う。

今でも百キロ歩けるという幻想を持っている。その時と今では体の条件が全く違うことはよく解っている。いずれ、また、百キロ歩いてみたいという気持ちがどこかに残っているのかもしれない。三年前の夏、尺取虫方式だが、京成線の津田沼駅から成田駅まで歩けた。地元でも春と秋に二十キロ歩こうという行事がある。疲れる、面倒、ごろ寝のほうがいい、で歩いていない。ひよつとしたら、この春、テクテク歩いているかもしれない。幻想を捨てないで。

強行遠足

八組 内藤泰蔵

強行遠足には色々な思い出があります。父が持っていた銀の草鞋のメダルでそれを知り、強行遠足を走るために一高に入学したようなものでした。

暗い弘法坂を一年生ひとり眠たく心細く歩いていた時、一緒に行ってくれた村上先生。サイドブレーキの利かない車で伴走してくれた仲沢

先生。走れば走るほど遠ざかる野辺山本部の灯り。丸山さんが作ってくださったシジミ汁。静まり返った中、聞こえる千曲川の川音。満天の星空に見えたいくつもの流れ星。朝日を浴びて赤く輝く浅間山。小諸で汗びつしよりなりながら歩いていた私に着替えのシャツを慌てて買ってきた。虎の子の一万円をなくされそうになった猪股先生。

中でも一番の思い出は父が亡くなった年、学生生活の区切りにと強行遠足にOBで参加して、現在自治省に勤務する望月達史氏と走ったことです。箕輪新町過ぎた所で生徒を追い越しました。しばらくするとその生徒が追ってきて「先輩、一年生で道が分からないので連れて行ってくれますか」と言われました。速く走るけれどそれでもよければ」と。

それから二人で走りました。市場を過ぎたころトップになりました。二人とも快調でした。小海の辺りで後続が五分ぐらいに追いつけてきました。「せっかくここまで来たので、トップで小諸にゴールしたいが走れるか」と望月君に聞きました。「走りましょう」次の検印所まで二十分足らずで駆け抜けました。結局、二人でそのままゴールインしました。

翌日、望月君が私の家に訪ねてきました。「お陰で自信ができました。今まで一橋大に行こうと思っていましたが東大を受験します」その後望月君はストレートで東大法学部に合格しました。西脇先生が「達史は成績も学年トップで譲らなかつた」と話されていました。

今でも毎年秋になると、強行遠足に参加したくてムズムズしてきます。何時までも青春を謳歌したいと思う私です。総合選抜が廃止され、強行遠足が未永く続くことを願います。

一回きりの強行遠足

二組 加納健一

私は長距離には自信があり、一高での強行遠足は一番楽しみにしていました。

しかし、一年生の時は突然の腰痛（その十年後に椎間板ヘルニア、二十九年後に脊椎狭窄症が発症し、その前兆だったのかもしれませんが）で不参加。

満を持しての二年生は野辺山まで順調でしたが、海の口で足の豆がつぶれて血だらけになり、次の地点で断念。

三年生は腎尿路結石（その後もストレスがあるごとにでき、もう三十回以上排石しています）のため不参加。

たった一度だけの強行遠足でしたが、朝日に輝く清里あたりの紅葉の美しさは今でも鮮明に覚えています。また所々の暖かい味噌汁（豚汁？）もとてもうまかったことも思い出されます。

大学生の時には甲府盆地を囲む南アルプスを全山単独行で三十キロの荷物を背負って何日も歩きました。

なぜ、一回しか参加できなかったのかと今でも悔やまれます。

山男失格・強行遠足合格物語

十二組 小倉英雄

あこがれの甲府一高に入ってから夢は、山岳部に入つて南アルプスをはじめとする山々に登頂することだった。入部すると、毎日の厳しい練習も欠かさず参加した。そして夏休み恒例の夏山合宿は、甲斐駒ヶ岳、北岳、仙丈岳の南アルプス縦走が予定されていた。ところが、合宿の直前に風邪をひいてしまい、出発前日になつても三七度の微熱が残っていたが、参加を中止する気は全くなかった。両親を説き伏せ諸先輩の許可を得て、あこがれの夏山登山で心ははやつていた。

最初に甲斐駒の山頂に立ったときの快感はなんとも言えないものだった。二日目の朝、手を切るような冷たい水で炊事をして出発したが、しばらくして体全体がだるくなり歩みがままならない。昼食はおにぎり半分食べるのがやっとだった。午後はずつときつくなつたが、パーティの進行を遅らせるわけにはいかず、意識朦朧の中で足下のこの谷から飛び降りたらどんなに楽だろうかと真剣に考えた。結局、その日の宿営地で先輩方が相談し、私一人のために翌日先輩と一緒に下山してくれることになった。

合わす顔がないという気持ちから山岳部は退部したが、そのとき迷惑をおかけした皆様には心よりお詫び申し上げたい。

その年の秋、甲府一高の恒例行事である強行遠足に参加した。小諸までの約百キロを歩くのはつらかったが、完走（歩）したときの充実感

は何物にも替え難いものであった。それに途中の野辺山で出されるしじみ汁のおいしさは感激そのものだった。

これに味をしめた私は毎年の強行遠足が楽しみになり、一年のときこそ百五十位前後だったが、その後次第に順位を上げ、三年のときには学年で二位（全体では十八位）となった。

強行遠足は、その後事故のためコースを少し迂回させ野辺山が終点になったそうだが、一高の名物行事として存続しているのは喜ばしい。

【強行遠足】昭和四年の第六回以降続いていた信濃大町方面コースが、三十七年（第三十七回）

から小諸方面（終点松原湖）に変更となった。三十八、三十九年は終点が中込（八十七キロ、制限時間十七時間）となり、さらに四十年からは小諸（百キロ、制限時間二十時間）となった。

この間、女子は区間が箕輪新町―松原湖（三十七年）箕輪新町―海ノ口（三十八年）若神子―野辺山（三十九年）と毎年変更され、四十年からは三軒屋―小海間となった。

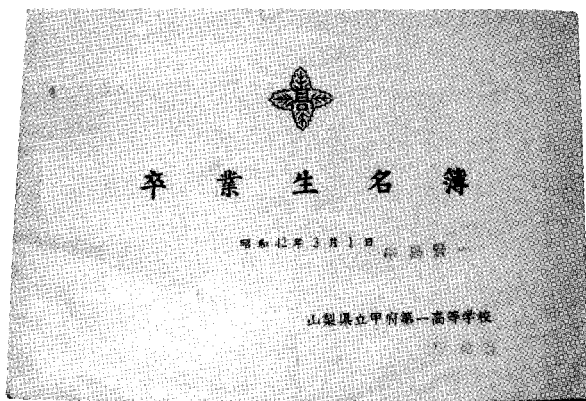
全学年男子の最終地点到達者数は三十九年が百二十七人（到達率八・九％）四十年は二百二十八人（同一五・三％）、四十一年は百七十人（同一一・八％）

コース最高点である野辺山の「しじみ汁」は参加者には忘れられない味であるが、「しじみ汁」そのものは、松本コースが設置された第三回から用意されていたという。強行遠足が始まる約一カ月前にシジミ百キロと味噌二十キロを予約

して、当日の朝、鍋や釜とともに野辺山に運び、準備を始めていたという。このしじみ汁の提供には「日新ホール」の食堂のマスター、丸山良雄氏が尽力されていた。

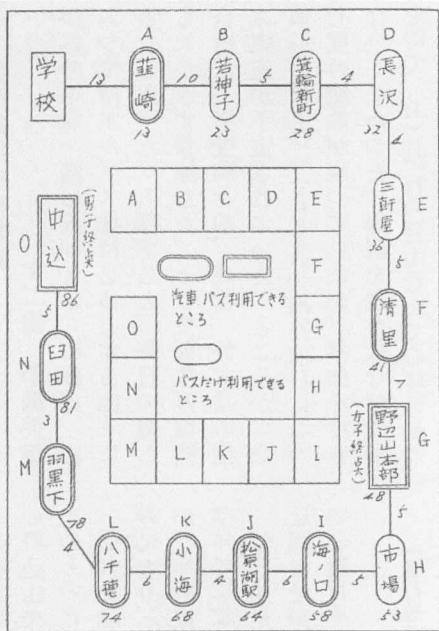
コース沿道の長野県の皆さんの親切も忘れ難いが、中でも白田救護所の依田さん一家とその周囲の方々の献身的な歓待ぶりは感激だった。

（強行遠足の詳しい記述は「強行遠足第70回記念誌『歩け、心のかぎり 1924―1996』甲府一高発行、平成九年刊を参照）

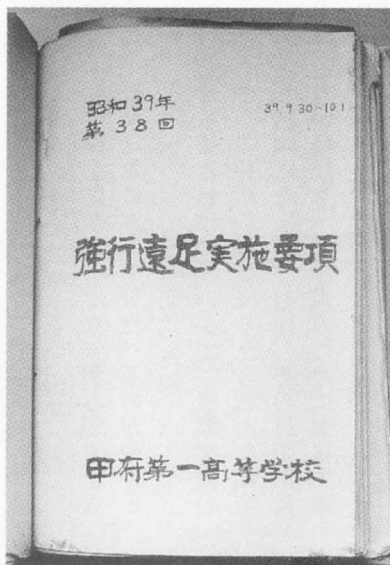


懐かしの強行遠足

昭和39—41年の記録



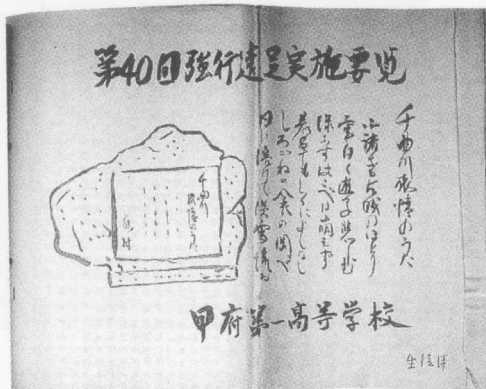
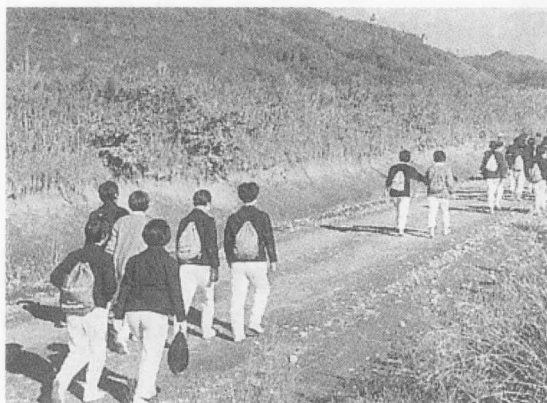
▲検印カード (昭和39・1964年)



▲強行遠足実地要項 (昭和39・1964年)

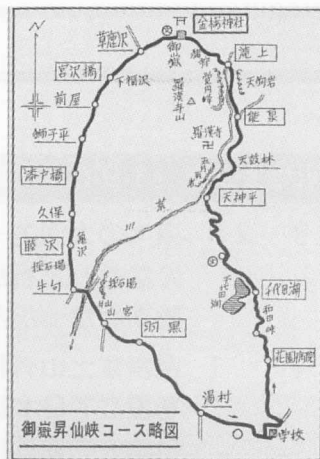


▲出発の太鼓をうつ広瀬校長 (昭和39・1964年)

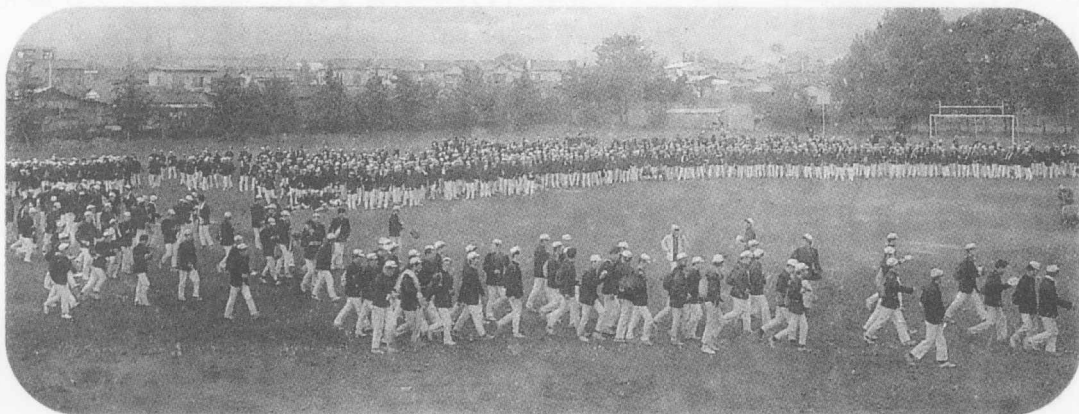




▲強行遠足予行実施要覧一生徒用(昭和 41・1966 年)



▲予行検印カード裏面－予行コース(昭和 41・1966 年)



▲校庭を一齐に出発する男子(昭和 41・1966 年)

番号 ()

団体乗車証明書

山梨県立甲府第一高等学校

年 組

氏名

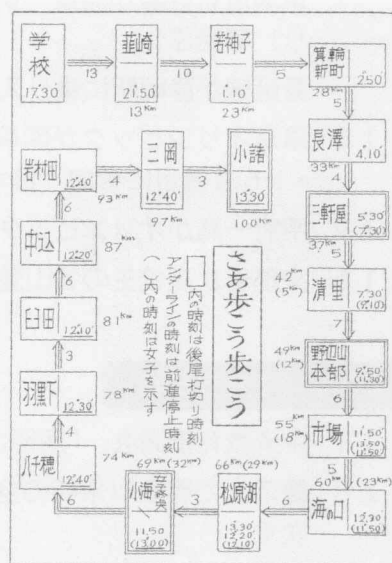
右は () 駅より団体乗車の一員として上り () 列車に乗車させました。

昭和 年 月 日

山梨県立甲府第一高等学校

() 救護検印所係印

▲国鉄(現 JR) 団体乗車証明書



▲検印カード(昭和 41・1966 年)

あこのころの出来事

昭和39年（1964年）

- 3・28 東大の大河内一男総長が卒業式で「太った豚になるより、やせたソクラテスになれ」と祝辞（プレスに配布された原稿にはこの言葉があったが、式では読まなかったという）
- 4・1 県営富士山有料道路（富士スバルライン）が開通 2年半の歳月と17億円を投じて日本最長の登山有料道路（29.5キロ）が完成
日本人の海外観光渡航が自由化され、団体客の第1陣がハワイへ出発。この年の海外観光旅行者は約12万人
- 6・1 南アルプス国立公園、八ヶ岳中信高原国定公園を指定
- 6・16 新潟地震発生 M7・7 死者・行方不明者38人 石油タンクが爆発、15日間炎上
- 6・20 県鳥に「ウグイス」県獣に「カモシカ」を指定
- 7・6 富士錦（甲府市出身）が大相撲名古屋場所で14勝1敗で平幕優勝
- 8・17 映画スター、佐田啓二が葦崎市の国道20号で交通事故死 37歳 蓼科の小津安二郎の別荘から東京に戻る途中 遺児の中井貴恵は6歳、中井貴一は2歳だった
- 8・31 野球留学中の村上雅則選手（南海、山梨県出身）が日本人初の大リーガーとしてサンフランシスコ・ジャイアンツ入り 大リーグ（2年間）の成績は5勝1敗9S、防御率3.43
- 9・16 富士山頂の気象レーダー完成
- 10・1 東海道新幹線が開業 東京―新大阪間を最高時速210キロ、4時間（ひかり）で結ぶ
身延線が静岡駅に乗り入れ
- 10・10 東京オリンピックが開幕 94の国と地域から5558人の選手が20競技・163種目に参加 日本の獲得メダルは金16、銀5、銅8
- 10・19 甲府一高がオリンピック観覧のため休業 20日まで2日間
- 12・16 文部省が高校生の冬山登山を禁止

昭和40年（1965年）

- 1・11 中央教育審議会、「期待される人間像」の中間草案を発表 論争起こる
- 1・28 慶応大で開塾以来初の全学スト 以後東北大、お茶の水大などで大学スト相次ぐ
- 3・10 富士山頂の気象レーダーが本格運用を開始

- 3・31 東京・新宿の淀橋浄水場が閉鎖 その後副都心として開発進む
- 4・6 中央自動車道、東京・八王子で起工式
- 4・10 舞鶴公園に青少年科学センターを開設
- 4・24 「ベトナムに平和を！市民連合（ベ平連）」が初のデモ 学生・主婦など約600人が参加 以後市民運動の大きな流れとなる
- 6・6 実業団8チームによる日本サッカーリーグが発足 釜本邦茂、杉山隆一ら活躍
- 10・1 第10回国勢調査 日本の人口は9827万4961人 山梨県の人口は76万3194人、世帯数17万5811
- 10・21 東京教育大の朝永振一郎教授、米国の2学者とともにノーベル物理学賞を受賞
- 11・3 甲府駅前に山交百貨店が県内初のターミナルデパートとして開店

昭和41年（1966年）

- 2・4 全日空の札幌発東京行きボーイング727型機、羽田沖に墜落 133人全員が死亡
- 3・4 カナダ航空DC8型機、濃霧の羽田で防潮堤に激突炎上 64人が死亡、8人が重軽傷
- 3・5 羽田から香港に向っていたBOACボーイング707型機が富士山上空で空中分解 124人全員が死亡
- 4・1 山梨県立短大、山梨英和短大が開校
- 4・4 プロ野球・巨人の堀内恒夫投手（甲府商業出身）が対中日戦に初登板し初勝利を飾る このシーズン、新人連勝記録の13連勝を達成したのをはじめ16勝2敗で、最優秀投手、新人王、沢村賞などを獲得
- 4・12 第1回信玄公まつり開催
- 5・18 文部省、42年度大学入試に推薦入試制度の採用を決定
- 6・29 ザ・ビートルズが来日
- 6・25 国民祝日法改正成立・公布 敬老の日・体育の日を新設 建国記念の日は6ヶ月以内に決定することに
- 7・4 閣議、新東京国際空港の建設地を成田市三里塚に決定
- 7・22 集中豪雨で甲府市の相川が氾濫 朝日3丁目から宝1丁目さらに平和通を濁流が渦巻き、全壊流失22棟、半壊79棟、浸水1500世帯 被害総額は39億円
- 9・25 台風26号が山梨を直撃 被害は足和田村、芦川村、上九一色村など御坂山系を中心にした山間部に集中 県内の死者141人、行方不明34人、重軽傷者208人、総被害額255億円に上った

12・12 中央線の新宿―松本間に特急「あずさ」運転開始

昭和42年（1967年）

- 1・25 第31回総選挙 自民党の得票率が始めて50%を割り48.8% 公明党が衆議院に初進出
- 1・29 山梨県知事選、田辺国男氏が五選を目指した天野久氏を破り初当選
- 3・24 甲府市教育委員会、春日小の校長、教頭を除く教壇教員18人をすべて女性にする構想を発表 最終的にPTAなどの反対で管理職以外に3人の男性教師を配置
- 4・7 有料御坂トンネルが開通 全長2778メートル 国中（御坂町）と郡内（河口湖町）を結ぶ最短距離となり、旧御坂峠と比べ約40分短縮された
- 7・1 ユーロッパ共同体（EC）が成立
- 7・3 中央線の東京―高尾間に特別快速電車が運転開始
- 8・27 学生のオリンピック、ユニバーシアード東京大会が開幕 アジアで初の開催 日本は21種目で優勝
- 10・20 吉田茂元首相死去 89歳 31日に戦後初の国葬
- 10・21 ワシントンで15万人参加のベトナム反戦集会 反戦デーにあたり世界各地でも集会やデモ
- 12・9 東京都電で銀座線など9系統が廃止、荒川線（早稲田―三ノ輪）だけとなる
- 12・25 舞鶴城西側で中央線を南北にまたぐ舞鶴橋の開通式 列車を運行させながらの工事のため7年かかっていたの完成となった 延長124メートル、幅15メートルの4車線 この年県内では歩道橋も各地で次々に完成

注 太字は山梨県に直接関係する事項

伊藤・遠藤・高野法律事務所

弁護士 遠藤 晃（昭和40年卒）

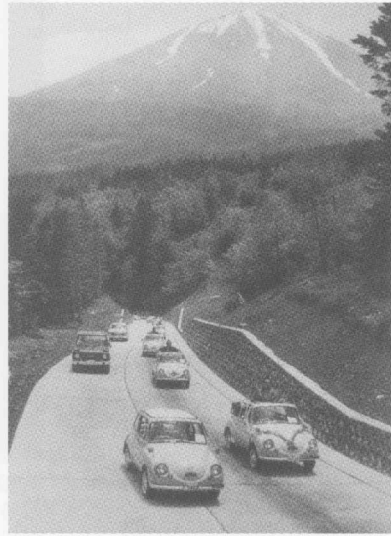
〒101-0047 千代区内神田2-11-6

内神田共同ビル3F

Tel.03-3254-0461 Fax.03-3254-0767



昭和39年7月、名古屋場所で平幕優勝し、ふるさとでパレードする富士錦関。(『山梨百年』より)



昭和39年4月の県営富士山有料道路の開通式では愛称のスパルラインにちなみ、同名の乗用車に大相撲の横綱佐田の山らが分乗してパレードした。(『山梨百年』より)



昭和39年の東京オリンピックでは聖火リレーが山梨県にも入り、若者たちが、全県を走った。(『山梨百年』より)



甲府一高の山本順二(右)と高柳幸夫の二人も聖火ランナーに。



昭和41年7月22日、甲府市北部に集中豪雨があり横沢町（朝日3丁目）の相川がはん乱、濁流が住宅街を襲い死傷者58人を出した。復旧作業をする市民たち。（『山梨百年』より）



昭和41年9月25日、26号台風が山梨県を直撃した。足和田村西湖、根場地区は押し流してきた土砂の下に埋まり、94人の生命が一瞬にして奪われた。（『山梨百年』より）



中央線に特急「あずさ」が登場。昭和41年12月12日、新宿発の特急が甲府駅に到着して、流線型のスマートな電車が話題を集めた。（『山梨百年』より）



美崎神社
「おみさきさんの神主が」と応援歌にも歌われた甲府一高の守り神



甲府銀座
その名の通り甲府のメインストリート



桜町通り
銀座通りの中央部を南北に横切り、にぎわっていた



甲府会館
「松菱」デパートから料理店、パチンコ店、温泉と様々な姿を変えたかつての甲府の“高層ビル”



舞鶴城
武徳殿で柔道・剣道に励んだ人もいたろうが、ほとんどはデートで利用？現在は復元工事が進み見違えるようだ



天神町・喜久の湯

一高の東側一帯にある天神町の銭湯。かつては太宰治も入ったという。下宿生でお世話になった人も。現在も営業



天神町・小田切質店

喜久の湯の向かいにある戦前からの建物で現存。利用した一高生はいないだろうが、通学で前を通った人は多いはず



太田町公園

別名遊亀公園。併設の動物園には子供のころよく行った



湯村・千人風呂

正式名称の「八香園」よりこちらの方が通じたが、本当に千人収容できたかは疑問。園内にローラースケート場もあった

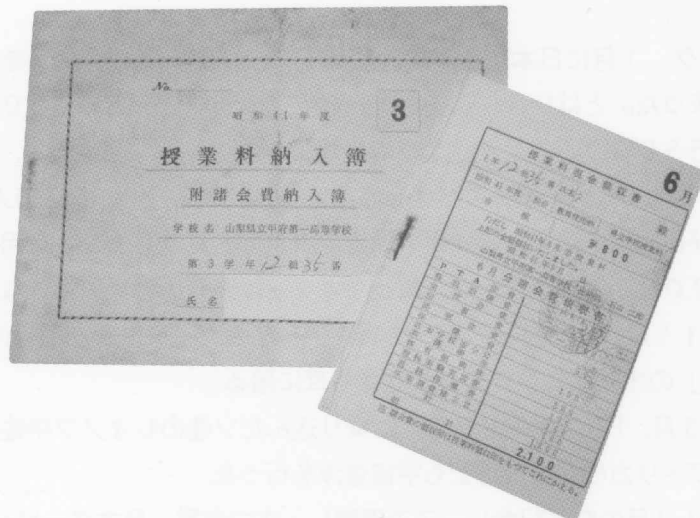
「43.44 ページの甲府市街の写真はいずれも
山村正光氏撮影」

あ の こ ろ の モ ノ の 値 段

学生服	4 2 0 0 円 (テترون 昭和 39・1 9 6 4 年)
学帽	2 0 0 0 円 (大学生用 昭和 35・1 9 6 0 年)
グローブ	3 5 0 0 ~ 3 8 0 0 円 (革製 昭和 40・1 9 6 5 年)
バット	1 8 0 0 円 (トネリコ 昭和 39・1 9 6 4 年)
硬式野球ボール	5 0 0 円 (高校用 昭和 39・1 9 6 4 年)
テニスラケット	1 6 0 0 ~ 3 2 0 0 円 (硬式)
フィルム	1 6 0 円 (白黒 1 2 枚撮り)
レコード	3 3 0 円 (E P 国産)
岩波文庫	☆ 1 つ 5 0 円 (昭和 37・1 9 6 2 年)
英和辞典	6 5 0 円 (コンサイス 昭和 41・1 9 6 6 年)
週刊誌	5 0 円 (週刊朝日 昭和 39・1 9 6 4 年)
新聞購読料	5 8 0 円 (朝夕刊セット)
高校授業料	9 6 0 0 円 (山梨県立高校 年額 昭和 39・1 9 6 4 年) *
大学受験料	1 5 0 0 円 (国立大学 昭和 38・1 9 6 3)
	5 0 0 0 円 (早稲田、慶応 昭和 39・1 9 6 4 年)

*甲府一高で、昭和 41・1 9 6 6 年度に 3 年生が納めた授業料関係は次の通り (いづれも年額)

授業料 9 6 0 0 円 ▽ P T A 会費 2 4 0 0 円 ▽ 施設整備費 6 0 0 円 ▽ 生徒会費 1 4 4 0 円 ▽ 図書費 8 4 0 円 ▽ 同窓会費 1 8 0 円 ▽ 保健費 1 2 0 円 ▽ 日本学校安全会共済掛金 1 0 0 円 ▽ 体育振興費 1 2 0 0 円 ▽ 理科実験実習費 2 4 0 円 進路指導費 1 0 0 0 円 ▽ 卒業諸費積立金 2 5 0 0 円 ▽ 合計 2 万 2 2 0 円



あのことろ流行ったモノ・言葉・歌

昭和39年（1964年）

▽**ウルトラC** 東京オリンピックの体操競技放送で連発された。A、B、Cの規定の難度を超えた「超高度の技」（例えば鉄棒の「伸身大飛び越し1回ひねり」など）で、体操用語から日常語に広がった。東京オリンピック関係では、このほか「おれについてこい」（バレーボールの大松博文監督）がある

▽**東京砂漠** 8月、東京は異常渇水となり、1日15時間の給水制限も行われた。自衛隊の給水部隊が出動したほか、人工降雨の実験も行われた。

▽**ON砲** 9月に巨人の王選手が本塁打55本の日本記録を達成した

▽**「氷点」** 7月、朝日新聞の1000万円懸賞小説に北海道の主婦、三浦綾子さんの作品が入選した。その後、テレビドラマ化、映画化され、いずれもヒットした。深刻なテーマだが、テレビドラマの内藤洋子がかわいかった

▽**「平凡パンチ」** 4月に平凡出版（現マガジンハウス）から創刊された。初めての若者向けの週刊誌で若者のライフスタイルに大きな影響を与えた

▽**モーニングショー** 4月、テレビ朝日で「木島則夫モーニングショー」が放送を開始した。日本で初の朝のワイドショー番組。アメリカのNBCの「TODAY」を参考にしたという。翌年にはNHKの「スタジオ102」フジテレビの「小川宏ショー」などが始まる

【**流行した歌**】 愛と死をみつめて 夜明けのうた お座敷小唄 東京五輪音頭 君だけをアンコ椿は恋の花 ウナセラディ東京 風に吹かれて 花はどこへ行った 朝日のあたる家 ダイヤモンド・ヘッド 抱きしめたい

昭和40年（1965年）

▽**ジャルパック** 1月に日本航空が海外団体ツアー「ジャルパック」を発売、海外旅行の大衆化が始まった。とはいえ、このとき、ハワイ9日間37万8000円、ヨーロッパ16日間67万5000円などかなりの高額だった

▽**エレキ族** 7月、ベンチャーズが28都市で来日公演を行い、17万人の観客を動員。エレキブームがピークを迎えた。4月の調査で東京地区だけでエレキを用いるアマチュアグループは約700組あったという。エレキギターは若者の音楽に大きな影響を与えた。

▽**11PM** 11月、日本テレビで放送開始。テレビのナイトショー番組のパイオニアで、「ダバダバダー」のオープニングの音楽は今も耳に残る

▽**宇宙遊泳** 3月、「ボスホード2号」に乗り込んだソ連のレオノフ中佐が宇宙遊泳に成功。6月にはアメリカの宇宙飛行士も宇宙遊泳を行った

▽**シンザン** 12月の有馬記念レースで優勝し、さつき賞、日本ダービー、菊花賞、天

皇賞と合わせて初の5冠馬となった

▽**シェー** 漫画「おそ松くん」に登場するイヤミの足と手を曲げるポーズと「シェー」のギャグ、それに語尾に「・・・ザーンズ」を付ける表現は盛んに真似された。原作は「少年サンデー」に昭和37・1962年から昭和42・1967年まで連載

【流行した歌】柔 女心の唄 さよならはダンスの後に 涙の連絡船 知りたくないの 網走番外地 学生時代 サティスファクション 夢見るシャンソン人形 マイ・ガール 悲しき願い

昭和41年（1966年）

▽**黒い霧** 8月、自民党の田中彰治衆院議員が恐喝容疑で逮捕されたのをはじめ、運輸相による自分の選挙区での急行停車駅の新設など政財官界にわたる職権乱用、利権あさりが次々に明るみにでた。世論の批判を受け11月、衆議院が解散され「黒い霧解散」と呼ばれた。田中代議士自身やその行為は「マッチポンプ」と呼ばれた。言葉の初出は昭和35・1960年から連載が始まった松本清張のドキュメント「日本の黒い霧」

▽**新三種の神器** 庶民のあこがれの的がカラーテレビ、カー、クーラーの「3C」となった。昭和30年代の三種の神器はテレビ、冷蔵庫、洗濯機だった。ちなみに本物の三種の神器は八咫鏡（やたのかがみ）、天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）、八坂瓊曲玉（やさかにのまがたま）

▽**物価戦争** 1月から配給米、私鉄、地下鉄、2月から国鉄、4月に国民健康保険、7月に郵便料金と公共料金の値上げが相次ぎ、庶民の暮らしを圧迫した

▽**丙午（ひのえうま）**「丙午生まれの女性は気性が荒く、男を食い殺す」という迷信が現代にも生きていたことが証明された形で、この年の出生数は約136万人で前年の75%まで落ち込んだ

▽**フォークソング** 和製フォークソング1号といえるマイク真木の「バラが咲いた」が大ヒットし、フォークブームが起こった

▽**ボカアしあわせだなあ** 加山雄三のヒット曲「君といつまでも」の台詞。鼻の横を指でこすりながらこの言葉を言うと大いにうけた

【流行した歌】霧氷 君といつまでも 悲しい酒 星のフラメンコ 夢は夜ひらく 赤い風船 唐獅子牡丹 骨まで愛して 星影のワルツ バラが咲いた 空に星があるように この胸のときめきを 男と女 思い出のグリーングラス

昭和42年（1967年）

▽**公害** 富山県のイタイタイ病、阿賀野川流域の水銀中毒などの原因が工場廃水と判明。四日市の喘息患者が初の大気汚染公害訴訟を起こし、いよいよ公害が身近なものに感じられるようになった

▽**フーテン族** 新宿駅東口にたむろする若者を、マスコミがこぞって紹介。彼らは無気力、倦怠感、アナーキーな雰囲気をただよわせていたが、音楽や踊りが好きであった。ある種の行動をしたり、傾向を持ったりする若者に「〇〇族」と命名するのが、このころのマスコミの特徴だった。このほか「アングラ族」「ヒッピー族」などもこの年の命名

▽**サユリスト** 吉永小百合はこの時、早稲田大学文学部に在学中で、ファンは大学生が多かったため、彼らをサユリストと呼ぶようになった。しかし、知性をひけらかさない清純さと可憐さは、学生だけでなく年配の男性もひきつけ、サユリストの幅は一段と広がった

▽**ミニスカート** ミニスカート自体は昭和40年に発表され、日本でも41年ごろから流行し始めたが、42年にデザイナーのマリー＝クワントが専属モデルのツイッギー（「ミニの女王」と呼ばれた）と来日してから大流行となった

▽**グループサウンズ** ブルー・コメッツ、ザ・タイガース、ザ・スパイダース、ザ・テンプターズ、ザ・ゴールデン・カップスなどを筆頭にこの年、200を超えるグループがあったという。おおむね熱狂するファンは女性の方が多く、メンバーのうち誰のファンかという好みも細かく分かれていた

▽**ピーコック革命** 東レと帝人が男のカラーシャツ・キャンペーンを展開、男子服のカラー化が始まった。カラーシャツは爆発的に売れ、ドブネズミ・ルックと呼ばれたサラリーマンのファッションが大きく変貌した。同時に、服装の流行の対象が中年から若者に移った

【流行した歌】ブルー・シャトウ 世界は二人のために 小指の思い出 夜霧よ今夜もありがとう 帰ってきたヨッパライ 花はおそかった 恋のフーガ モナリザの微笑 ハートに灯をつけて ダンス天国 恋はみずいろ 青い影

（「流行」の性質上、その事象、言葉がいつ流行したのか正確に言うのは難しい。本欄では、一般的に認められている時期をもとに、筆者の記憶なども参考に表記した。）

一紅会だより

第八回一紅会新春講演会は、アルカディア市ヶ谷にて二月五日(土)に開催され、二百六十四名(女性百二十七名、男性百三十七名)もの出席者を得て大盛況でした。

講師に昭和三十八年卒の作家、渡辺房男氏をお迎えし「明治維新への旅〜私の歴史小説〜」と題してお話いただきました。氏は幕末から維新への激動期に大きな関心を寄せ、この十一年余りその足跡をたどる旅を重ねて知り得たことなどエピソードを交えながら味わい深くお話し下さいました。歴史の表舞台には上らないまま滅び去っていったもの達にも温かい眼差しをおくる氏の語りに聴衆が魅了されたひとときでした。

講演会終了後は懇親会のロリポップパーティーです。増え続ける出席予定者数に嬉しい悲鳴をあげ、急遽隣の部屋までお借りしたので例年の二倍のスペースでの盛会となりました。会場のセッティングも一段と華やかに供されとてもよい雰囲気でした。最長老の昭和三年卒の白倉様から平成六年卒のお若い方までみんなが楽しく語り合い和やかに歓談できました。皆様のご協力によりこのように成功裏に終了できましたこと感謝してご報告します。

来年の講演会は会場の都合により三月二十一日(祝日)を予定しております。皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

当番幹事



盛況だった一紅会の新春講演会

表紙・資料について

主な参考資料 「昭和・平成家庭史年表」(河出書房新社) 「読める年表」(自由国民社) 「昭和史年表」(小学館) 「近代日本総合年表」(岩波書店) 「昭和世相流行語辞典」(旺文社) 「明治・大正・昭和の新語・流行語辞典」(三省堂) 「戦後史大辞典」(三省堂) 「昭和ことは60年史」(講談社) 「値段の明治大正昭和風俗史」(週刊朝日編) 「第十八回オリンピック競技大会公式報告書」(オリ

ンピック東京大会組織委員会) 「昭和が明るかった頃」(関川夏央、文春文庫) 「写真集 百年のあゆみ」(甲府一高同窓会) 「山梨県立甲府中学 甲府第一高等学校 創立百二十周年記念誌」 山梨日日新聞、朝日新聞、読売新聞、カメラメーカーなど各種のホームページ

甲府一高関係の写真では、一高に関する記念誌の編集に携わってきた福岡哲司君(42年卒、元一高教諭、現山梨県立図書館長)に大変お世話になった。

山梨県内での出来事に関する写真は山梨日日新聞社の許可を得て、「写真集 山梨百年」から転載した。

甲府の町並みに関する写真は甲府在住の山村正光氏が昭和30年代から40年代にかけて撮影したもので、福岡君の紹介で提供を受けた。

表紙の絵は山本正英君(42年卒、名古屋造形芸術大学教授)から提供を受けた。日本橋三越で開催の個展(風景を求めて 二〇〇四年九月二十一日〜二十七日)で展示されていた作品から、幹事が選んだ。山本君は毎年のようにイギリスを訪れ、かの地の風景を作品にしている。

編集後記

この機会がなければ、引出しにしまったまま、いつか忘却の彼方に消滅しただろう記憶の断章。年月とともに退色著しい一高時代。あの豊穡だっ

た空間が、幾多の寄稿と中島部会長の取材で色鮮やかに蘇りました。

38年も経ってから「ああそうだったのか!」と友人達の当時から伝わってくるなんて、なかなか味わい深い人生ですね。(山本正英)

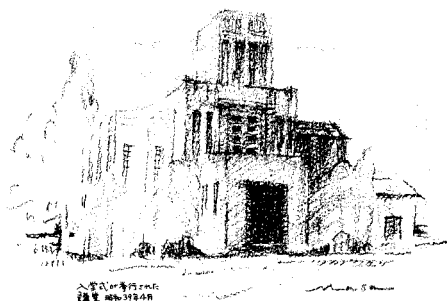
本誌の編集に多少なりとも役に立つことができ、大変嬉しいです。作業の過程で、甲府中学、甲府一高と連綿と続く母校の歴史をかいま見るにつき、その中で自分の存在の小ささを感じます。ただ、自分にとっては、社会への巣立ちの第一歩となった3年間がいかに貴重で大きなものだったかを今さらながら実感しました。この東京同窓会が今後も続いてほしいと祈らずにいられません。(小倉英雄)

「日新鐘」編集にたずさわり、何十年かぶりに母校を鮮明に思い出し、またよき友にも再会できたことを本当にうれしく思っております。旧友に会った時、その場で話してもまた時間と共に消え去ってしまいます。それが一冊の記念誌として残り、後世まで語り継がれるとしたら、この「日新鐘」は本当に貴重なものと思います。今回、このイベントに参加して自分が一番純粹だったころの利害打算のない友の大切さを改めて感じました。(齋藤千恵子)

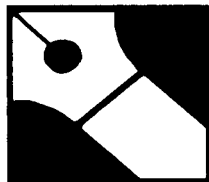
やっぱり一高生はすごい。日新鐘に原稿を書いてもらうのは大変と思いきや、予想を上回って書いていただきました。あれやこれやの注文

にも快く応じてくれた大人たち。ありがとうございます。寄稿してくれた友、私以外の能ある編集委員、幹事たちのおかげで、日新鐘をお目にかけることが出来ます。みんな、「一高出自」が伊達でないことの証明です。この勢いで、還暦の年に学年誌を作れたらいい。(細木博雄)

振り返ると、人生の原点は甲府一高で学んだ16歳から18歳の青春時代にあったように思います。あのころは自分のことで精一杯で(自分は何者なのか、何を望んでいるのか、と悩んだこともありました)学校全体や社会を見渡す余裕がありませんでした。級友たちの文章を読み、当時の出来事などを調べることで分かったこともありました。単なるノスタルジーに終わらずに、日本が大きく変貌を遂げた時代の若者達の行動、思考についての資料になればと思っております。(中島賢二)



大学進学を目指す生徒の…



哲塾

南アルプス市小笠原590-8

☎055-284-3364

代ゼミサテライン予備校 ソフィア

代表 望月 哲夫 (昭和42年)

東芝・三菱・日立・富士・松下・古河・NEC・オムロン 他

Qビクル・FA制御盤／電線・照明・OAフロアー／空調・床暖房・LAN

＜東京都財務局・山梨県出納局指定＞



新星電機株式会社

ISO9001:2000 CI/3754

S42年卒業

秋山 仁博

〒400-0047 甲府市徳行5丁目2-25

E-mail shinsei-d@nifty.com

製造部 ☎055(228)2331 FAX(228)2333

電材部 ☎055(226)2161 FAX(226)2197

特販部 ☎055(226)0845 FAX(226)2197

明るい笑顔と思いやりの心で



境川診療所

許山 厚
もとやま あつし

〒406-0842 山梨県笛吹市境川町石橋2207-1

TEL.055-266-2012

FAX.055-266-7117

うちだのきもの

株式会社

うちだ

代表取締役 **内田末雄**
(昭和40年卒)

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-21-2

TEL.03-3951-8528

FAX.03-3951-8538



株式会社 樋川建設

建築 営業部 〒409-3864 山梨県中巨摩郡昭和町押越90
TEL(055)275-4211 FAX(055)275-5718

本社 〒400-0032 山梨県甲府市中央5丁目7-26
TEL(055)235-2525

HIKAWA

ISO 9001 認証取得

環境と健康に貢献する「プラント事業」と「プール事業」



株式会社 OTTO

代表取締役社長 阪本和也
(昭和36年卒)

プラント事業

- ・ 石炭、コークス関連プラント
- ・ 焼却炉、リサイクル設備等の廃棄物処理設備
- ・ 燃焼および環境保全関連設備

プール事業

- ・ 競技用プール
- ・ 多目的温泉施設
- ・ ウォーターパーク

本社：〒104-0045 東京都中央区築地4-1-17 銀座大野ビル
TEL.03-3545-3661(代) FAX.03-3545-5559

||||| 信 頼 施 工 |||||

爆破土木、構造物発破解体、温泉掘削・設備、鉄構製品



株式会社 カコー

代表取締役社長
伊東 昭 (昭和34年卒)

本社／東京都千代田区神田西福田町4-1 Tel.03-3255-7770 Fax.03-3255-7780
支店・営業所／東京、仙台、千葉、知多、名古屋、大阪、広島、福岡 [URL <http://www.kacoh.co.jp/>]

宮 崎 法 律 事 務 所

弁護士 宮 崎 明 雄 (昭和42年卒)

〒400-0031 甲府市丸の内3-32-15
TEL.055-227-2710 FAX.055-227-2709



医療と 介護に 真剣です。

その人の不安も分からずに、

医療保険は語れない。

その人の辛さも感じないで、

介護保険は語れない。

フコク生命

営広 04.06.16J-R.039

富国生命保険相互会社 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 TEL 03-3508-1101

古川内科胃腸科

院長 古川 晴 康
啓 子 (昭和42年卒)
(旧姓 相川)

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩4-7-21
TEL 03 (3655) 7017

正木 基文 (昭和39年卒)

県立長崎シーボルト大学大学院教授
(人間健康科学研究科栄養科学専攻)
email:masaki@sun.ac.jp T&F:095-813-5217

正木 和枝 (昭和42年卒)
(旧姓 佐々木)

東京都ひきこもりサポートネット
<http://www.hikikomori-tokyo.jp/>

有限会社 わたなべ食品

〒406-0807
山梨県笛吹市御坂町二之宮2485-1
TEL 055-263-0673 FAX 055-263-2297
E-mail: watanabe@houtou.jp

甲州よっちゃんぽれ本店
<http://www.houtou.jp>



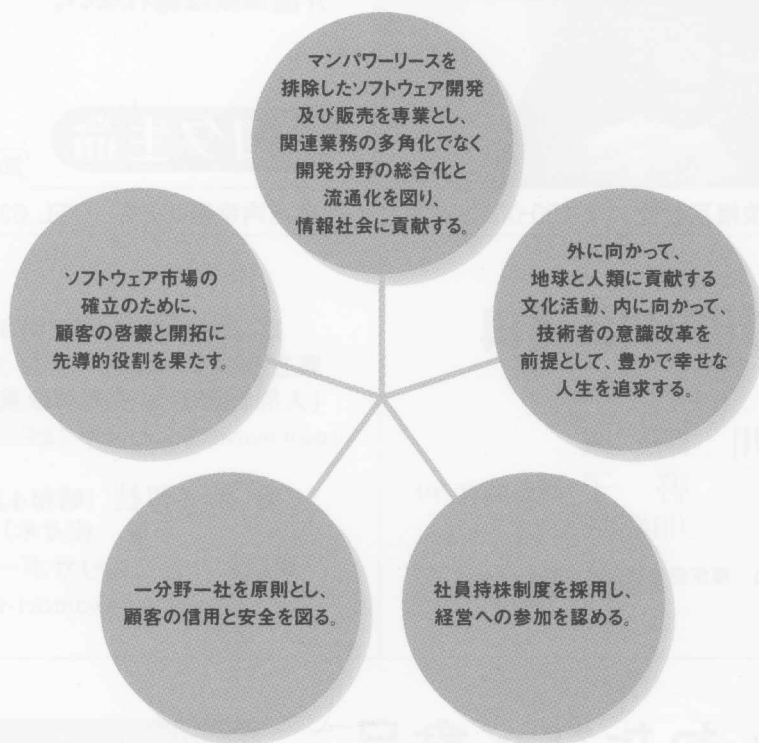


当社のキャラクター【柳小面】

この能面は、金春の座附きであった大藏彌右衛門虎明（慶長七年の時六歳）の書いた「わらべ草」「登髭」「金春小面と同じ作、同木にて打たる面也、今ノ金春小面ハ柳ナリ」とある小面のことと云われている。池田家伝来。

この能面を、演者で製品の提供者である（株）ジャステックと鑑賞者で製品の使用者であるお客様とを結ぶキャラクターとして採用しました。

経営理念



株式会社 **ジャステック**

代表取締役社長 神山 茂（昭和30年卒）

〒108-0074 東京都港区高輪3-5-23 TEL. 03 (3446) 0295 (代表)
ホームページアドレス <http://www.jastec.co.jp/>

流通システムと商業施設の企画・設計・施工

- 店舗経営を成功に導く、機能・デザイン・コスト・システムのトータルスタディ
- 地域のアイデンティティを最大限にいかしたコーディネート
- 首都圏と山梨との掛け橋で繁栄する店づくりのサポート

第一システム販売株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-5-1大蓄ビル2F, TEL (03) 3254-0404, FAX (03) 3253-6356
<http://www.daiichi-system.co.jp>

地域に生活する人々の文化や特質を考えた空間をプロデュース

建築・街づくりのコンサルタント

- デザイン性、話題性と事業性を両立させる総合建築プロデュース
- 人を主役にした民間主導型街づくりの実践的プロデュース
- 様々な才能が集まる都市再生拠点“REN-BASE UK01”の企画、運営



AFTERNOON SOCIETY Inc.

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-5-1大蓄ビル2F, TEL (03) 5297-5660, FAX (03) 5297-5662
<http://www.as-tokyo.com>

Good job!
Good company!



株式会社



代表取締役社長 廣 瀬 彰 義 (昭和31年卒)

本社 〒820-0004 福岡県飯塚市新立岩1番20号 TEL0948 (22) 0215 (代)
福岡支店 TEL 092 (473) 0889・北九州支店 TEL 093 (681) 9138
東京支店 TEL 03 (3441) 4125・大坂支店 TEL 0722 (61) 7771
環境・新エネルギー部 TEL 0948 (22) 0282

祝

末 広 会 (S42年卒歯科医の会)

池谷剛	河西八郎	菊池原英世	佐藤菊香
戸沢茂紀	堀田一男	依田竹雄	山本和恵

木下特許商標事務所

Kinoshita & Associates

内、外国特許・実用新案・意匠
商標・サービスマーク
出願及び相談

- あなたの会社の特許教育、特許管理、発明発掘、商標・サービスマーク選択承ります
- あなたのアイディア、デザイン、ネーミングを権利化します

所長 弁理士 木下 實三(昭和36年卒)

副所長 弁理士 石崎 剛 副所長 弁理士 中山 寛二

弁理士 秦 正則 弁理士 加山 涼子

弁理士 渡辺 久純 弁理士 井手 夕香子

弁理士 寺田 雅弘 弁理士 廣岡 寿人

〒167-0051 東京都杉並区荻窪5丁目26番13号 荻窪TMビル3階

TEL.(03)3393-7800 FAX.(03)3393-7808

E-mail general@kinoshita-pat.co.jp URL <http://www.kinoshita-pat.co.jp>

主要取引先

出光興産、セイコーエプソン、コマツ、ミサワホーム
東芝機械、パイオニア、ミットヨ、YKKグループ

皆様の不動産パートナー

昭和地所 株式会社

常務執行役員

流通事業本部長 横澤良次(昭和42年卒)

営業内容

不動産仲介業
アセットマネジメント事業
プロパティマネジメント事業
住宅分譲事業

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目7番8号
アビタシオンビル

TEL.03-3562-6951 FAX.03-3562-6964
<http://www.showa-jisho.co.jp>

津久井胃腸科医院

津久井 敏郎(昭和42年)

外科・内科・肛門科

胃内視鏡電話予約可、入院設備有

☎(055) 284-6311

南アルプス市加賀美2885

花*CONTACT立川

☎042-540-1213

営業時間 AM11:00~PM7:30

立川市曙町2-12-18
立川駅前ビル7F

年中無休

花CONTACTだけのおトクな特典!!

全ての CONTACTレンズには
ケア用品が無料で付きます!

保証 すべてのレンズには
1年間保証が付きます!

レンズ代 すぐに購入できる!
6ヶ月有効のレンズ購入券発行!

<http://www.hanacontact.com> [携帯からもご覧いただけます]

日興コーディアル証券7F



駅から徒歩1分

健康保険証をご持参下さい

各種クレジットカード取扱

CONTACTレンズは医療用具です。
眼科医の定期的な検診が必要となります。

- 一部商品を除き即日お渡しすることができます。
- ②印はメーカー希望小売価格です。
- 表示価格は、消費税込みの価格です。



株式会社 UG都市建築

代表取締役
山下 昌彦
(昭和45年卒)

東京都港区赤坂8丁目5番28号
TEL 03-3796-0601 FAX 03-3796-0748
URL <http://www.ugtk.jp>



岩井機械工業株式会社

昭和37年卒

取締役 綱倉 武夫
経営本部長

〒144-0033
東京都大田区東糀谷3-17-10
TEL 03-3744-1119
FAX 03-3741-8399

ヤマシナ

山梨品川燃料(株)

代表取締役 伊 奈 宏 司(S25卒)

甲府市朝日1の1の16
253-2023

野辺山調剤薬局

処方せん受付

専用FAX 0267-91-1611
TEL 0267-91-1610

三石 知恵子 (昭和42年卒)

持つ人のステイタスを語る チタン印

角印 21mm角	45,000円	
代表者印 18mmφ	39,800円	
実印 15mmφ×60	19,800円	

高書体 21mm×21mm×60mm
高書体 18mmφ×60mm
高書体 15mmφ×60mm

山梨の地場産業の一角を占めます印章の卸問屋モチギ株式会社(本社:甲府)は、東京神田にハンコの小売店舗『しるし屋さん』をオープンいたしました。一高卒の皆様のご利用、ご愛顧お願いいたします。

甲府一高S42卒業
茂手木 寛

NEW はんこの明朗会計システム

ご希望にに合わせて… 素材+彫刻技術料 当店売れ筋、No.1はこれ!

個人向 実印		法人向 実印	
アカネ15mm丸 ハイテク彫刻仕上げ	5,095円	アカネ18mm丸 ハイテク彫刻仕上げ	7,992円
アカネ15mm丸 一級技能彫刻仕上げ	7,845円	牛角黒(光悦) 18mm丸 ハイテク彫刻仕上げ	11,820円
牛角黒15mm丸(芯持) ハイテク彫刻仕上げ	6,300円	法人向 角印 アカネ24mm角 ハイテク彫刻仕上げ	7,668円

即日納品OK!です

オープン!!ハローキティのいる楽しいはんこ屋さん

9タイプのオンデマンドシステムを導入

はんこ ゴム印 浸透印 名刺 はがき レーザー



しるし屋さん 神田店

東京都千代田区神田須田町1-28-13

TEL 03-5295-3677

FAX 03-3255-7494

見積もり大歓迎 TEL一本でお伺い致します。

<http://www.shirushiya.com>



司法書士
小野竹雄事務所

司法書士 小野竹雄

〒400-0025 山梨県甲府市朝日町2丁目12-2
TEL.055(252)3900代 FAX.055(253)4166
<http://www.nns.ne.jp/pri/ono-jso>
ono-jso@nns.ne.jp

味とワインの散歩道 西洋料理店

レストラン

藤

店主 内藤吉文

〒400-0074 甲府市千塚一丁目3-19
TEL・FAX (055)251-3332
自宅 TEL (055)252-3696

全天候型室内テーマパーク Cinnamon

サンリオピューロランド

ミュージカル、アクロバット、イリュージョン

ライブショーの魅力いっぱい!!

○営業日、営業時間、イベント、各種情報などのお問い合わせ
サンリオピューロランドゲストセンター
042-339-1111 (9:30-17:00 休館日を除く)
www.puroland.co.jp



ひとを最優先に、技術を最高水準に、未来の成功を最大限に。



「People.Techonology.Commitment」、私たち東京エレクトロンは、

新しいコーポレートメッセージを掲げ、21世紀をスタートしました。

People — 「ひと」を大切に、「ひと」に喜ばれる価値をお届けします。

Techonology — 常に世界最高水準の技術で、最高品質の製品提供を目指します。

Commitment — 人々の将来にわたる成功に向けて責任ある対応をお約束します。

東京エレクトロンは、IT時代を根幹から支え、
皆様の豊かな未来の実現に取り組んでいきます。



東京エレクトロンAT

〒407-8511 山梨県韮崎市藤井町北下条2381-1 TEL : 0551-22-8611

■事業内容：半導体製造装置、FPD製造装置の開発・製造

弁護士 笠井 治

(昭和42年卒業)

東京リベルテ法律事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目25番2号

ブリヂストン虎ノ門ビル1階

TEL 03-5776-2211 FAX 03-5401-2261

e-mail o.kasai@tokyoliberte.com

URL: http://www.tokyoliberte.com

ルック洋装店

雪江 憲三 (昭和11年卒)

〒400-0025

山梨県甲府市朝日1-10-5

電話 055-252-4452

日本一の国蝶オオムラサキの生息地
八ヶ岳高原北杜市

里山の昆虫資料館
北杜市オオムラサキセンター

TEL&FAX 0551-32-6648

館長 跡部 浩賢 昭和42年卒

医療法人社団 浅利クリニック
循環器科 内科 外科

院長 浅利秀男 (昭和40年卒)

〒228-0027 神奈川県座間市座間2-236

Tel.046-255-8611

嶋崎耳鼻咽喉科医院

医師 嶋崎 嘉人

(昭和42年卒)

〒409-3863

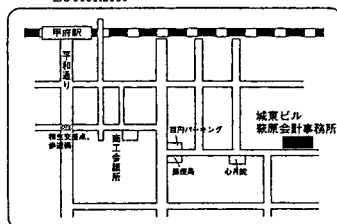
山梨県中巨摩郡昭和町河東中島1317

TEL/FAX 055 (275) 8741

萩原勝公認会計士・税理士事務所



萩原 勝



〒400-0861 山梨県甲府市城東二丁目17-13
telephone.055-222-8080(代) facsimile.055-228-9046

辯護士

深澤 隆之

(昭和41年卒)

深沢綜合法律事務所

事務所 東京都豊島区東池袋3丁目1番1号

〒170-6022 サンシャイン60 22階12号

TEL 03 (3983) 2226(代)

FAX 03 (3983) 2359

in the House
kato

荏嶋ルネス3F
PHONE 0551(23)2583

高級寝装品
呉服・ベビー用品

株式
会社

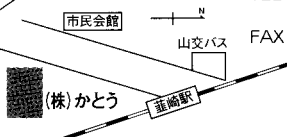
かとう

荏嶋本店

TEL 0551-22-0225

0551-23-2504

FAX 0551-23-0505



東京同窓会のご盛会とみなさまのご健康、
ご活躍をお祈り申し上げます。

医療法人社団 啓仁会

赤岡整形外科医院

院長 赤岡 啓二 (S42卒)

中巨摩郡田富町西花輪3591 (オギノ田富店前)

TEL055-273-1231

地場正樹 (昭和42年卒)
甲府市酒折2-4-11

鮎作治

甲府市中央四丁目8-19
電話 (235) 1238

神経痛・リュウマチの山の湯



積翠寺温泉

代表取締役

山本 淳仁

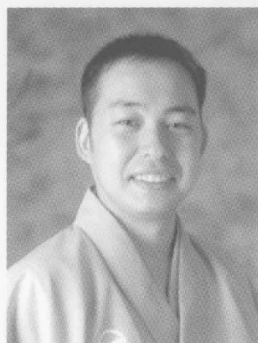
(昭和58年卒)

〒400-0011

山梨県甲府市上積翠寺町1003

☎055(253)2611

おめでたい催しに獅子舞、曲芸、祭り囃子などの
パフォーマンスで、皆様に幸せをお届けします!



太神楽師 (だいかぐらし)
幸せを呼ぶ若獅子 (おとこ)

鏡味仙三

(かがみ せんざ/平成6年度卒)



社団法人落語協会 太神楽曲芸協会所属
太神楽(東京都指定無形民俗文化財)

第二期国立劇場太神楽研修を経て、
鏡味仙三郎に入門。

都内の演芸場をキーステーションに、
イベント・テレビなど幅広く活躍。

平成15年時代劇ドラマ「夜桜お染」(フジテレビ)レギュラー出演。

平成16年度文化庁国際芸術交流支援事業「タイ王国・バンコク公演」に参加。

平成17年初の自主公演「仙三まつり」を甲府にて開催。

平成16年度国立演芸場 花形演芸大賞「銀賞」受賞、レギュラー出演中。

● 仙三郎の会・芸暦50年

【開催日】8月12 (金)

【時 間】17:30開場 18:00開演

【場 所】国立演芸場

【本戸銭】前売2,000円 当日2,500円

【出 演】鏡味仙三郎、仙一、仙三、
仙花、正二郎、やなぎ南玉

【ゲスト】林家正楽、花島世津子

【問合せ】03-5616-7766 (仙三)

● 花形演芸会

【開催日】8月28日 (日)

【時 間】12:30開場 13:00開演

【場 所】国立演芸場

【本戸銭】前売当日共1,500円 (指定席)

【出 演】鏡味仙三ほか

【問合せ】03-3230-3000

(国立劇場チケットセンター)

● 奉納演芸会

【開催日】9月25 (日)

【時 間】11:00開演

【場 所】靖国神社能楽堂

【本戸銭】無料

【出 演】太神楽曲芸協会会員

【問合せ】03-5616-7766 (仙三)

※寄席 (新宿末広亭・鈴木演芸場・浅草演芸ホール・池袋演芸場) に通年「仙三郎社中」として出演中。

senza@blue.ocn.ne.jp

古典芸能発! エンターテインメント集団 25inch

http://www11.ocn.ne.jp/~of25inch/

境川カントリー倶楽部

代表取締役 金丸 信吾 (昭和38年卒)

ゴルフ場 〒406-0851 山梨県笛吹市境川町小黒坂2266 TEL.(055)266-5011(代)

橋梁・水門・自動除塵機・SR合成起伏堰

飯田鉄工株式会社

代表取締役 飯田 章雄
専務取締役 飯田 祥雄 (S30年卒)
取締役技術部長 飯田 国雄 (S35年卒)
取締役総務部長 保坂 雅寛 (S47年卒)



本社 〒400-0047 山梨県甲府市徳行2丁目2-38
営業本部 〒406-0842 山梨県笛吹市境川町石橋1314
境川工場 TEL(055)-266-6644 FAX(055)-266-6645

株式会社 小林機械

代表取締役 小林康行

本社 岩手県胆沢郡前沢町字養ヶ森 44-32
TEL 0197-56-4205

鳩ヶ谷工場 埼玉県鳩ヶ谷市里 475-4
TEL 0482-84-3780



きずな
『同窓の絆』から
うた
『同窓の詩』へ

平成16年度東京同窓会には、会員の
皆様の温かいご支援と惜しまぬご協力を
ありがとうございました。

平成17年度東京同窓会のご盛会を、
心から応援しています。

東京S41会(平成16年度当番幹事学年)



幹事会一同

広告スペースの提供 松野春樹様(S30卒)



御祝

2005年

甲府中学・甲府一高

東京同窓会

昭和42年卒一同



“あなたの会社の海外調達”

(有)インポート・マテリアル

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-31-5(白井ビル7F)
Tel (03) 3590-9311

代表取締役 川野 昭雄(S42卒)

- 米国WPT社製エアークラッチ・ブレーキ
- 米国OSI社製エアークラッチ・ブレーキ
- 米国Gummi社製エアークラッチ・ブレーキ
- 欧米製油圧式クラッチ・ブレーキ
- 欧米製ベアリング、(ティムケン・トリトン・SKF他)
- 欧米製鉄鋼業・製紙関連機械部品
- その他海外産業用部品

米国WPT社日本総代理
米国OSI社日本総代理
米国Gummi社日本総代理



DK 株式会社 中嶋文夫 + D・A設計事務所

代表取締役 中嶋文夫 (昭和46年卒)

設計監理

- 分譲マンション ●賃貸マンション
- 事務所ビル ●テナントビル
- RC住宅 ●教会等

オフィス 〒180-0006 東京都武蔵野市中町2-5-24
中嶋ビル4F TEL:0422(51)8417
FAX:0422(51)8436

E-MAIL da-sekkei@tokyo.email.ne.jp

H P http://www.ne.jp/asahi/da-sekkei/nakajima

F. NAKAJIMA & DEVELOPMENT ARCHITECTS AND ASSOCIATES



昭立プラスチック工業株式会社

営業品目

- ◎ アクリル樹脂パイプの製造・販売
12Φ~1000Φ・1m~4m・透明カラー各種
- ◎ アクリル樹脂加工
光学機器・医療機器・水処理・照明器具
ディスプレイ・実験装置
- ◎ その他プラスチック製品全般

昭和42年卒
関口正昭

〒350-0821 埼玉県川越市大字福田160-1
TEL 049(224)2315(代) FAX049(224)2877
URL:www.shoritsu.jp E-mail:info@shoritsu.jp

サイ
最高のデザイン
サイ
最高の印刷



株式 会社 内田印刷所

〒400-0032 甲府市中央2-10-18
TEL (055) 233-0188 FAX (055) 233-0180

祝・甲府中学・甲府一高東京同窓会

不動産賃貸業

株式会社 マンゲン 有限会社 万源興業

代表取締役 雨宮俊彦 (S45年卒)

首都圏/山梨県マンション管理士会会員

甲府市宝1-20-21 (〒400-0034)
tel 055-224-4155 fax 055-224-4566
e-mail:mangen@mx2.nns.ne.jp

笠井收法律事務所

弁護士 笠井 收 (昭和39年卒)

〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目11番17号
宮庭ビル1003号

電話 03 (3356) 7617 (代)

FAX 03 (3356) 8155

E-mail skasai@oregano.ocn.ne.jp

いらか

薨建築設計

企画・設計・監理
一級建築士事務所

代表

興水正樹 (S42年卒)

〒400-0026 甲府市塩部4-5-10 PHONE 055-252-9979
FAX 055-252-9989

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷1-11-14 ビジデンス千駄ヶ谷503
http://iraka-k.jp E-mail:info@iraka-k.jp



株式会社 丸十特殊土木

代表取締役 小 泉 純 一

千葉県八千代市八千代台東1-40-7

TEL 047-485-3451



肛門科 各種保険取扱い 入院設備有り 日曜午前も診療 荒川外科肛門科医院

院長 松田 好雄 (昭和35年卒)

〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7

Tel.03-3806-8213

クリスタル・ミュージアム kōfu

葡萄工房 ワイングラス館 KATSUNUMA

自然工房 石ころ館 KAWAGUCHIKO

41年卒 丹沢良治



株式会社ラッキー商会

取締役会長 望 月 政 男

本社/〒400-0864 山梨県甲府市湯田2-10-12

TEL.055-237-7272(代) FAX.055-235-0952

東京オフィス/〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17

TEL.03-3401-7708(代) FAX.03-3401-7734

<http://www.j-lucy.co.jp> E-mail:mochi@j-lucy.co.jp

高輝度・広視野角 リア型プロジェクター



- ❖ **52型の大画面で高鮮明画像**
ホームシアターに最適な高輝度・広視野角画面
- ❖ **環境にやさしい省電力235W**
同クラスのパズマディスプレイの半分程度
- ❖ **パソコン画像に最適な
4(横) : 3(縦) サイズ**
- ❖ **Pin P (ピクチャーインピクチャー) 機能**
パソコン画面をメイン表示中、DVD やビデオ画像を
子画面で表示できます
- ❖ **10W+10W の
大容量ステレオスピーカー内蔵**

CABIN リア型プロジェクター

CE-52R ¥732,900(本体¥698,000+税¥34,900)

専用台 ¥134,400(本体¥128,000+税¥6,400)

ISO 9001 承認取得企業
CABIN[®] キャビン工業株式会社
製品に関するご質問・お問い合わせは下記をお願いします。

フリーダイヤル ☎ **0120-051170** AM9:00~PM5:00まで(土・日祝日はつながりません。)
〒135-8730 東京都江東区潮見2-9-15 〒532-0003 大阪市中央区和泉町2-2-2 内田洋行大阪支店ビル2F
インターネット・ホームページアドレス <http://www.cabin-kogyo.co.jp/>



ヘルスケア産業における
新たなビジネスの創生

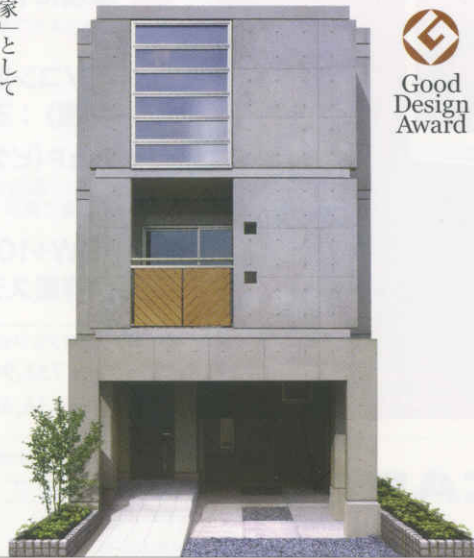
代表取締役

中村 和男
(昭和40年卒)

シミツク株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4 金剛ビル
tel. 03-5745-7070 fax. 03-5745-7077
<http://www.cmic.co.jp/>

デザインで選んでも、
耐震性能で選んでも、
答えはパルコン。



「強く美しい家」として
30年以上進化し続けてきたパルコン。
グッドデザイン賞に輝くなど
デザイン性が評価される一方で、
いま、とくに強く訴えたいのはその耐震性能です。
壁式構造のパルコンは
地震の揺れを面でうけとめ分散・吸収。
軸組構造と違って力が集中しないため安全です。
そのうえ地震後の火災にも燃えさず崩れません。
パルコンを選ぶことは、強さと美しさを選ぶことです。

安心、快適なコンクリート住宅

Palcon



大成建設株式会社
住宅事業本部

<http://www.homestyle.taisei.co.jp/>

パルコンについてのお問い合わせはこちらまで。

☎0120-197-406

株式
会社

ブティック社

家庭実用書の出版社



レディブティック

FEMALE

こどもファッション

歌謡曲

風景写真

よい子とママの

アニメ絵本

Cotton
friend

**ネイル
UP!**

四季彩
ペインティング

**ビーズ
friend**

ムックシリーズ
ソーイング・ニット・洋裁
料理・手芸・園芸

〒102-8620 東京都千代田区平河町1-8-3

TEL 03 (3234) 2001 (代) FAX 03 (3234) 6406

<http://www.boutique-sha.co.jp>

CEO 志村司郎 (昭20年卒)

会長 志村昌也 (昭35年卒)

社長 内藤 朗 (昭46年卒)

TOSHIBA

e-STUDIO 3511/4511

見えてきたのは、
美しい未来のカタチ。



※写真はオプションを装着した状態です。

カラーも使える、
高性能Net-Ready MFPモデル
Copy + Printer + Scanner

 **Net-Ready MFP**

テンプレート よく使う機能をあらかじめプログラム登録できる、12,060個のテンプレート機能を搭載。

スキャナ スキャンデータをネットワーク上の共有フォルダやEメールに添付^{※1}、送信できるネットワークスキャナ機能。

ファイリングボックス ファイリングボックス機能により、一時保管したコピー／プリンタ／スキャン／受信FAX^{※2}データの再印刷やページ編集が可能。

プリント 直感的でわかりやすいユーザーインターフェイスが、使い勝手をさらに向上。さらに、フィニッシングの利用でドキュメント作成を効率化。

コピー 必要性和利便性を徹底追求。充実のコピー機能。

FAX インターネットFAX、受信FAX転送、PC-FAXなど多彩なFAX機能をご用意。^{※2}

※1メールサーバが必要です。※2オプション装着時。

つながる・つなげる・情報ゲートウェイ Net-Ready MFP <http://www.toshibamfp.net/>

東芝テック株式会社 画像情報通信カンパニー

〒141-8664 東京都品川区東五反田2-17-2 ☎0120-201877



TOKYO KAIKAN

お祝い・ご家族やお仲間とお食事会に、ぜひご利用ください。
落ち着いた個室もご用意いたしております。



東京會館でお食事を



● 本館2階
レストラン ブルニエ(フランス料理)
● 本館1階
シエ・ロッシニ(西洋料理)
● 地下1階
八千代(日本料理)
東苑(中国料理)



皇居二重橋前

東京會館

千代田区丸の内3-2-1 TEL03-3215-2111 <http://www.kaikan.co.jp>

協賛金協力者名簿（クラス別）

氏名	組	氏名	組
八田 政恭	1	中込 正義	8
青柳 博	1	大原 久宜	8
津田 昭仁	1	大倉 博	8
池田 幸平	2	生田目良子	8
井上 英仁	2	三石知恵子	8
河西 久崇	2	佐々木勝弥	8
日野水 仁	2	山西 政昭	8
斉藤 澄	2	堀内万寿夫	9
川野 昭雄	3	古屋 敬子	9
金子 正義	3	八巻 珍男	9
深澤 政年	3	龍野 克枝	9
三塩 珠樹	3	茂手木 寛	9
大芝 芳郎	3	許山 厚	10
小林 正夫	3	藤川 利雄	10
戸栗 秀樹	3	宮田りゅう子	10
三森 茂	4	長沼 礼子	10
鶴田 裕恵	4	渡辺 緑	10
伊藤 志郎	4	佐藤 静子	10
秋山 仁博	5	長谷部春男	11
松土 正一	5	久保田三郎	11
芦沢 玉雄	5	原 晴美	11
宮崎 明雄	5	相川恵美子	11
原 経光	5	中沢 隆一	11
山田 栄一	6	広瀬奈津美	11
辻 敏子	6	跡部 治賢	11
桑江 彰子	6	塚脇 一帆	11
正木 和枝	6	嶋崎 嘉人	11
古川 啓子	6	横澤 良次	12
細木 博雄	6	小倉 英雄	12
藤巻 朗	6	伏見 和史	12
望月三千雄	6	笠井 高芳	12
依田 竹雄	7	宇野 文子	12
小島 康夫	7	佐野 高志	12
斉藤 豪	7	河野 憲	12
津久井敏郎	7	(宗)一蓮寺	12
板倉 立身	7	内田 一宝	12
山田 実	7	3年12組有志	12
清水 洋子	8	鈴木 義廣	41年卒

日新鐘 第 12 号

発行日 2005 年 7 月 8 日

発行責任者 横澤良次

編 集 中嶋賢一

協 力 昭和 42 年幹事一同

印刷 (株)内田印刷所

山梨県甲府市中央 2 丁目 10-18

TEL 055-233-0188

FAX 055-233-0180